

PHIL HAR MONY

The background features abstract geometric shapes in shades of green and red. A large, stylized white number '2' is prominently displayed, overlapping the green and red areas. The overall design is modern and minimalist.

December 2021
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

12月定期公演 池袋Cプログラムの出演者変更について

11月29日に政府から発表された「オミクロン株に対する水際措置の強化」により外国人の新規入国が停止されたため、2021年12月定期公演池袋Cプログラムに出演を予定していたワシーリ・ペトレニコ氏(指揮)とダニエル・ミュラー・ショット氏(チェロ)は来日できなくなりました。

このため以下の通り出演者を変更して開催いたします。なお、曲目の変更はございません。

何卒ご理解いただきますようお願い申し上げます。

(下線部分が変更事項)

第1946回 定期公演 池袋Cプログラム 東京芸術劇場

12月10日(金)開演 7:30pm、11日(土)開演 2:00pm

指揮:ガエタノ・デスピノーサ

チェロ:佐藤晴真*

チャイコフスキー／ロココ風の主題による変奏曲 作品33*

※フィッツェンハーゲン版での演奏を予定していましたが(21頁を参照)、
出演者変更に伴い原典版による演奏に変更させていただきます。

ムソルグスキー(ラヴェル編)／組曲「展覧会の絵」

チェロ:佐藤晴真



©Tomoko Hidaki

2019年、ミュンヘン国際音楽コンクールのチェロ部門で日本人として初めて優勝し、一躍国際的に注目を集める。2018年には、ルトスワフスキ国際チェロ・コンクールにおいて第1位および特別賞を受賞した。全日本学生音楽コンクール第1位および日本放送協会賞、日本音楽コンクール第1位および徳永賞・黒柳賞、ドメニコ・ガブリエリ・チェロコンクール第1位など、受賞多数。すでに国内外のオーケストラと共演を重ね、室内楽にも積極的に取り組む。2018年、ワルシャワにて「ショパンと彼のヨーロッパ国際音楽祭」に出演。2019年には、本格デビューとなるリサイタル公演を行った。2020年11月には、名門レーベルよりデビューアルバムとなる『The Senses〜ブラムス作品集〜』、本年11月にはセカンドアルバム『SOUVENIR〜ドビュッシー&フランク作品集』をリリース。

これまでに、林良一、山崎伸子、中木健二の各氏に師事。現在は、ベルリン芸術大学にてJ.P.マインツ氏に師事している。

使用楽器は宗次コレクションより貸与されたE.ロッカ 1903年。ベルリン在住。

N響との初共演は2021年10月のこと。定期公演には今回が初めての出演となる。

Change in conductor and soloist of December Ikebukuro Program C

Due to the tightening of border controls to prevent the omicron variant from spreading, the government has banned all incoming new foreign visitors to Japan effective November 29th, therefore Vasily Petrenko (conductor) and Daniel Müller-Schott (cello), who were scheduled to appear in Ikebukuro Program C of the December Subscription Concerts, are not able to come to Japan. Hence there will be a change in conductor and soloist. The program remains the same. We appreciate your kind understanding.

The 1946th Subscription Concert Ikebukuro Program C at Tokyo Metropolitan Theatre

(changes are underlined)

Friday, December 10th 7:30pm / Saturday, December 11th 2:00pm

Conductor: Gaetano d'Espinosa

Cello: Haruma Sato *

Tchaikovsky / "Variations on a Rococo Theme," Op. 33*

Mussorgsky / Ravel / "Tableaux d'une exposition," suite

Haruma Sato, cello

In 2019, Haruma Sato became the first Japanese to win the ARD International Music Competition and quickly came to an international spotlight. In the previous year, he won the 1st and special prizes at the Witold Lutosławski International Cello Competition. Among the awards he has earned are the 1st prize and Japan Broadcasting Corporation (NHK) prize at the Student Music Concours of Japan, 1st prize, along with the Tokunaga and the Kuroyanagi awards at the Music Competition of Japan and 1st prize at the Domenico-Gabrielli-Competition. He has worked with orchestras at home and abroad, and also has been active in chamber music performances. He appeared at the "Chopin and his Europe" Festival held in Warsaw in 2018, and in the following year, he held a recital to mark his full-scale professional debut. The Senses - Brahms collection, his debut album, was released on a prestigious label in November 2020, and his second album titled SOUVENIR - Debussy & Franck was released in November this year.

He has studied under Ryoichi Hayashi, Nobuko Yamazaki and Kenji Nakagi, and currently under Jens Peter Maintz at the Universität der Künste Berlin (Berlin University of the Arts). He plays an Enrico Rocca 1903 cello on loan from the Munetsugu Collection. He is currently a resident of Berlin. He first worked with the NHK Symphony Orchestra in October 2021, and this is his first appearance in the orchestra's subscription series.

感染症予防対策についての取り組み

みなさまに安心して演奏をお楽しみいただけるように、以下の感染症予防対策について、ご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

- 会場内では、必ずマスクを正しく常時着用し、手洗い、手指の消毒、咳エチケットにご協力ください。
- 感染予防のため休憩中も含め、客席内ではご自身のお座席以外への着席はご遠慮ください。
- 入退場時および会場内では、まわりの方々との距離を確保した上で行動くださいますよう、ご協力をお願いいたします。また、混雑緩和のために入退場時に、制限をさせていただく場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 当日、チケット半券のもぎりは、係員の確認後、お客様ご自身でお願いいたします。ただし状況により係りがもぎる場合があります。
- プログラムは所定の場所からお客様ご自身でお持ちください。
- 政府や自治体によるイベント開催要件に変更があった場合は、チケット販売の一時停止や入場者数上限の設定等を行います。
- ロビー等では大きな声での歓談はお控えください。
- 「ブラボー」等の掛け声はお控えください。
- サイン会は実施しません。また、楽屋口での出演者の待ち・出待ちはお断りいたします。また出演者への面会やプレゼントもお断りいたします。
- 万が一、ご来場のみなさまの中から新型コロナウイルス感染者が発生した場合には、保健所など公的機関へチケット購入時にいただいたお客様の情報を

を提供する場合がございます。またその場合、複数枚をご購入いただいた方には、同伴者など、当日ご来場いただいた方の連絡先をお伺いいたします。あらかじめご承知おきください。

- 喫茶コーナーは会場により、営業縮小もしくは休止している場合があります。
- 会場内でのお食事はお控えください。また持ち込みもご遠慮ください。
- クロークは休止しております。
- ブランケット等の貸し出しサービスは休止いたします。必要に応じて、防寒の備えをお勧めいたします。
- 会場内のドアノブや座席の手すりなどはあらかじめ消毒を実施します。
- 会場内の常時換気、開場中および休憩中の客席扉の開放など空気の入替えに努めます。
- スタッフもマスクの着用等、ご来場のみなさま同様に感染予防の対策を行います。また、業務の内容により、フェイスシールドやビニール手袋の着用をさせていただきます。
- 厚生労働省による新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)や自治体独自の通知アプリなどの活用を推奨いたします。

お客様へのお願い



公演中は携帯電話、時計のアラーム等は必ずお切りください



演奏は最後の余韻までお楽しみください



場内での録画、録音、写真撮影は固くお断りいたします



私語、パンフレットをめくる音など、物音が出ないように配慮ください



演奏中の入退場はご遠慮ください



補聴器が正しく装着されているかご確認ください

PHILHARMONY

CONTENTS

DECEMBER 2021

12

- 6 [公演プログラム] Ikebukuro Program A
- 11 [公演プログラム] Program B
- 19 [公演プログラム] Ikebukuro Program C
- 23 [シリーズ] **N響百年史 | 第24回 | “公益放送”は交響楽団を欲する!** 片山杜秀
- 27 2022年1月定期公演の聴きどころ
—公演企画担当者から
- 29 チケットのご案内(定期公演 2021年9月~2022年6月)
- 30 2021-22定期公演プログラム
- 32 特別公演/各地の公演
- 35 NHK交響楽団メンバー
- 36 特別支援・特別協力・賛助会員
- 40 曲目解説執筆者/Information
- 41 みなさまの声をお聞かせください!
- 42 NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO
Members
- [Artist Profiles & Program Notes]
- 43 Ikebukuro Program A
- 45 Program B
- 48 Ikebukuro Program C
- 50 The Subscription Concerts Program 2021-22
- 52 役員等・団友

インターネットアンケートに ご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。ご協力をお願いいたします。

詳しくは41ページをご覧ください



こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>



THE



bmw.co.jp

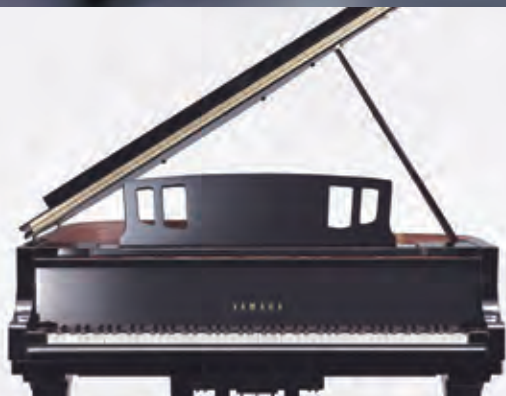
詳しくはお近くのBMW正規ディーラーまたはBMWカスタマー・インタラクション・センターへ 0120-269-437

喜怒哀楽を語りつくそう。

感情のあやを、想いのひだを、音に宿して語りうること。

C3X *espressivo*、求めた表現力は、心と同じ繊細さ、広大さ。

C3X *espressivo*



弾性に優れ、音色の幅を広げるハンマーや、木材自体の響きを引き出す曲練支柱など、プレミアムピアノの開発で培われた技術を結集したほか、響板にはヨーロッパスプルースを使用するなど素材も厳選。仕上げの整音・整調工程にはより多くの時間をかけ、一台一台丁寧に、緻密な調整を行うことで、C3X *espressivo*ならではの多彩な表現力や豊かな音を実現しました。

GRAND PIANO C3X *espressivo*

希望小売価格 3,630,000円
(税抜価格 3,300,000円)



C3X *espressivo* WEB サイト

● ヤマハピアノ・電子ピアノホームページ <https://jp.yamaha.com/piano/>

● ヤマハピアノのお問い合わせは、お客様コミュニケーションセンター

ピアノご相談窓口 ☎0570-003-808 営業時間:月曜~金曜10:00~17:00(祝日およびセンター指定休日を除く)

株式会社ヤマハミュージックジャパン



PALACE HOTEL TOKYO



美しい国の、美しい一日がある。

パレスホテル東京

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 1-1-1 tel 03-3211-5211(代表) www.palacehoteltokyo.com



Special Thanks



NHK SYMPHONY ORCHESTRA T O K Y O

特別支援


With Special Support of

岩谷産業株式会社

Iwatani Corporation

 三菱地所株式会社

Mitsubishi Estate Co., Ltd.

 みずほ銀行

Mizuho Bank, Ltd.

公益財団法人 渋谷育英会

Shibuya Scholarship Foundation

NHK交響楽団は上記の各社から特別支援をいただいております。

2020年2月、ウィーン・コンツェルトハウスにて
©Lukas Beck

PROGRAM

池袋

A

第1945回

東京芸術劇場

12/4 土 6:00pm

12/5 日 2:00pm

指揮 ガエタノ・デスピノーサ

ピアノ 小林海都

コンサートマスター 白井 圭

ブラームス

ハイドンの主題による変奏曲

作品56a [19']

バルトーク

ピアノ協奏曲 第3番 [23']

I アレグレット

II アダージョ・レリジョーソ

III アレグロ・ヴィヴァーチェ

— 休憩 (20分) —

シェーンベルク

浄められた夜 作品4 [30']

★当初予定の出演者・曲目から変更になりました。

後援：豊島区

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは41ページをご覧ください



こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

ガエタノ・デスピノーサ (指揮)



1978年、イタリア・シチリア島のパレルモ生まれ。地元でヴァイオリンとピアノのほか、作曲と哲学を学び、まずはヴァイオリニストとしてキャリアをスタートし、2003年から2008年までドレスデン国立歌劇場のコンサートマスターを務めた。

指揮者ファビオ・ルイーゼの薦めで、2008年以降は指揮者としての活動に専念。2012年から2017年までミラノ・ジュゼッペ・ヴェルディ交響楽団の首席客演指揮者。フィレンツェ五月祭管弦楽団、ローマ聖チェチーリア国立アカデミー管弦楽団、トリノRAI交響楽団などイタリアを中心に数多くの公演に招かれている。

オペラ指揮者としての評価も高く、2010年5月にドレスデン国立歌劇場の《椿姫》でデビューを飾ると、その後はジェノヴァ歌劇場、グラーツ歌劇場、リヨン歌劇場、フェニーチェ劇場などに客演。2019年から2021年においては、ドレスデン国立歌劇場にて《ナブッコ》《フィガロの結婚》《ノルマ》を指揮、今後も、《蝶々夫人》《ランスへの旅》などを指揮する。ドレスデン国立歌劇場とは、ライマンの新作初演を含むラジオ収録のほか、2022年5月には、イェルク・ヘルヒェットの新作初演を含む公演でいよいよコンサート・デビューを飾る。

N響との初共演は2012年4月。今回は2019年3月以来、4度目の共演となる。

小林海都 (ピアノ)



1995年横浜生まれ。上野学園高等学校音楽科演奏家コース卒業後、エリーザベト王妃音楽院で学び、現在はバーゼル音楽院にてクラウディオ・マルティネス・メナーに師事。マリア・ジョアン・ピレシュのもとでも研鑽を積み、彼女が立ち上げた若手音楽家育成プロジェクト「バルティウーラ・プロジェクト」の一員として、デュオ・コンサートや収録などに携わった。国内のオーケストラをはじめ、海外でもベルギー国立管弦楽団、バーゼル交響楽団、ロイヤル・リヴァプール・フィルハーモニー管弦楽団など多数のオーケストラと共演。

受賞歴も多く、2013年に東京音楽コンクール第2位、2018年にはサンタ・セシリア国際コンクールで第3位に入賞している。近年は室内楽にも積極的で、2021年9月にイギリスで行われたリーズ国際ピアノ・コンクールでは、1975年以来の日本人歴代最高位の第2位に加えヤルタ・メニューイン賞（最優秀室内楽演奏賞）も受賞した。同コンクールのファイナルで披露した難曲、バルトークの《ピアノ協奏曲第3番》を携え、N響初登場。

Program Notes | 白井史人

西洋音楽の伝統的な和声法や調性から離れて独自の世界を確立し、「十二音技法」という組織的な作曲法を提唱したアルノルト・シェーンベルグ(1874~1951)は、システムや規則よりも、職人技としての「手仕事(Handwerk)」を重視し続けた音楽家でもあった。本日のプログラムは、19~20世紀前半にかけての西洋音楽の変化を体現する巨匠の作品が並ぶ。伝統的技法を手中におさめ、みずからのルーツへ立ち返ることで音楽語法を洗練させていった作曲家たちの、三者三様の「手仕事」の匠を堪能したい。

ブラームス

ハイドンの主題による変奏曲 作品56a

北ドイツの港町ハンブルクで生まれたヨハネス・ブラームス(1833~1897)がみずからの音楽の拠り所としたのは、ベートーヴェンからシューマンへいたる古典派からロマン派への系譜や、その基礎となるバロック音楽だった。とりわけ、ひとつの主題から出発し、リズム、調性、様式などを変化させていく変奏曲は、初期のピアノ曲《ヘンデルの主題による変奏曲とフーガ》作品24(1861)から《交響曲第4番》作品98(1885)の終楽章にいたるまで、先人から受け継いだ作曲技法を発展させる格好の分野となった。

《ハイドンの主題による変奏曲》作品56は、1873年、ブラームスが40歳の時に作曲され、2台ピアノ版と管弦楽版が出版された。主題《聖アントニウスの賛歌》は、ハイドン《ディヴェルティメント 変ロ長調》から採られたが、旋律は別人によるものとする見方が強い。

変ロ長調の牧歌的主題は、木管五重奏の原曲を意識してファゴット、オーボエ、ホルンらによって提示され、8つの変奏とフィナーレが続く。8分音符と3連符がやわらかく絡み合う弦楽に導かれる第1変奏から、付点のリズムを強調する短調の第2変奏へと、各変奏は対比的に配置されている。ホルンの16分音符のシグナルが開始を告げる第6変奏では和声上の色付けも繊細に変化し、シチリアーノ風の室内楽的な第7変奏、短調で素早い動きの第8変奏を経て長大なフィナーレへ至る。フィナーレのパスサカリアでは、コラル風のバス主題の提示にすでに対位法的展開が組み込まれ、原型の主題が輝かしく全曲を閉じる。

作曲年代	1873年
初演	1873年11月2日、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、作曲家自身による指揮
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット2、ティンパニ1、トライアングル、弦楽

バルトーク

ピアノ協奏曲 第3番

オーストリア・ハンガリー二重君主国のトロンタール地方に生まれた音楽家ベラ・バルトーク(1881~1945)は、ハンガリーを代表する国民的音楽家として、20世紀の音楽のモダニズムを牽引した。ゾルターン・コダーイ(1882~1967)らと親交をむすんでハンガリーやルーマニアの民謡採集に没頭し、音階、調性、リズム、楽節構造などを構築していった。モダニズム運動と国民意識の葛藤のなかで成立したオペラ《青ひげ公の城》(1911)から、ピアノ曲集《マイクロコスモス》(1926/39)、晩年の《管弦楽のための協奏曲》(1943)まで、西洋音楽の伝統と民俗音楽に刺激された革新のせめぎ合いを聴き取ることができる。

《ピアノ協奏曲第3番》(1945)は、1940年にアメリカに移住したバルトークが、重病を押して妻ディッタの誕生日を記念して作曲した遺作のひとつ。未完のまま遺された最後の17小節は、速記をもとに総譜が作られた。《ピアノ協奏曲第1番》(1926)、《ピアノ協奏曲第2番》(1931)と比較すると、打楽器的でプリミティヴな表現は後退し、前衛的な和声や伝統的な要素が、透明感のあるテクスチュアに組み込まれている。

第1楽章の冒頭、ソリストが奏する息の長い旋律は、ルーマニアの民族音楽「ドイナ」を連想させる。ホ音を中心に旋法が揺らぐこの旋律の大部分はオクターブのユニゾンで奏され、歌や旋律楽器のような表現が求められる。中間部では、16分音符のモティーフによる、精緻な動機労作が展開していく。

「アダージョ・レリジョーソ(ゆっくりと、宗教的に)」と指示された第2楽章は、3部形式。弦楽の厳粛な響きと、ピアノが奏するコラル風(合唱風)の祈りが交互に現れる冒頭に続き、中間部の木管の鋭いパッセージは、鳥の声を模倣しつつ、転回形による対称性も同居している。再現部では、ピアノは装飾音を自由に展開しハ長調の周辺を揺れ動き、冒頭の音型がさまざまな楽器へエコーしながら、ホ長調の和音へと静かに終止する。

第3楽章は、3拍子の2拍目を強調する特徴的なリズムによる舞曲風のアレグロ・ヴィヴァーチェ。「短長長短(タッターンターッタ)」というリズムは、バルトークの音楽に頻出する「ハンガリーの」要素である。曲の半ば、ティンパニのソロによってリズムが剥き出しになる部分に続き、ピアノからカノン風の対位法的展開が管弦楽全体へ広がる。

作曲年代	1945年
初演	1946年2月8日、フィラデルフィア、フィラデルフィア管弦楽団、ユージン・オーマンディ指揮、シャーンドル・ジェルジ独奏
楽器編成	フルート2(ピッコロ1)、オーボエ2(イングリッシュ・ホルン1)、クラリネット2(バス・クラリネット1)、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、シロフォン、トライアングル、小太鼓、大太鼓、シンバル、タムタム、弦楽、ピアノ・ソロ

浄められた夜 作品4

オーストリアのウィーン生まれのユダヤ系音楽家アルノルト・シェーンベルクは、独学で作曲を開始し、アレクサンダー・フォン・ツェムリンスキー(1871~1942)の影響のもと、爛熟した後期ロマンの作風で頭角を現した。歌曲《架空庭園の書》(1909)などで不協和音を解放した無調作品を次々と生み出し、1920年代はベルリンを拠点に「十二音技法」を《管弦楽のための変奏曲》(1928)などで発展させた。1933年、ナチ政権の弾圧を恐れアメリカへ亡命し、1951年に移住先のロサンゼルスで生涯を閉じた。

弦楽六重奏曲《浄められた夜》は、1899年9月に若きシェーンベルクがわずか3週間で書きあげた作品である。世紀末ウィーンを代表する詩人リヒャルト・デーメル(1863~1920)の詩集『女と世界』から採られた同名の詩に基づく。シェーンベルクは、デーメルの詩へ数作すでに作曲していたが、本作は標題音楽と室内楽を結びつける新たな試みであった。5部からなるデーメルの詩は、荒涼とした林のなかを歩く2人の男女のさまを描く。3人称の視点から状況を語る第1、3、5部に、女が別の男の子供を宿していることを告白する第2部と、男が女の告白を受け入れる第4部が挟まれている。

後年の自作解説によれば、低弦の2分音符に導かれて登場するニ短調の下行音型モチーフは、月明かりの林を歩く2人の足取りを示している。女の語りに対応する旋律がヴァイオリンで奏される第29小節からは、付点のリズムによる動機が駆り立てられるように息の長い旋律へ発展し、複数の声部と絡みあっていく。ソナタ形式と分析されることもある濃密な音響空間には、ブラームスの動機労作とワーグナーの和声や管弦楽法を巧みに取り込んだ初期のシェーンベルクの特徴がいかに発揮されている。

楽曲構造は詩の5部構造に緩やかに対応している。中間部では明るいニ長調に転じてチェロが悠然と新たな主題を提示し、男が「きみから私へ、私からきみへ輝きを放つ特別な暖かさが、見知らぬ子どもを浄めるだろう」と語る第4部に対応する部分で、先行する動機が変化し絡みあってクライマックスへなだれ込む。

弦楽合奏版は、コントラバスによる低弦の補強に加え、独奏部分も残した彫りの深い表現が特徴である。1917年の編曲版ののち、指揮などの実演経験が1943年の改訂版に反映されている。改訂版の出版後に出版社間の権利問題に巻き込まれたが、音を書くことで生活し、楽曲の細部まで明晰に具現化しようとしたシェーンベルクの職人としての矜持は、海を越えても健在だった。

作曲年代	[弦楽六重奏] 1899年 [弦楽合奏版] 1917年出版(ウニヴェルザール社)
	[弦楽合奏改訂版] 1943年出版(アソシエイトッド・ミュージック・パブリッシャー)
初演	[弦楽六重奏] 1899年3月18日、ウィーン、ロゼ弦楽四重奏団、フランツ・イェリネク、フランツ・シュミット
	[弦楽合奏版] 1916年12月、プラハ [弦楽合奏改訂版] 1944年2月、ニューヨーク
楽器編成	弦楽

B

第1947回

サントリーホール

12/15 水 7:00pm

12/16 木 7:00pm

指揮

山田和樹

ソプラノ

佐々木典子

コンサートマスター

篠崎史紀

マーラー

花の章 [7']

R. シュトラウス

4つの最後の歌 [24']

I 春

II 九月

III 眠りにつくとき

IV 夕映えのなかで

— 休憩 (20分) —

ベートーヴェン

交響曲 第3番 変ホ長調 作品55

「英雄」 [50']

I アレグロ・コン・ブリオ

II 葬送行進曲: アダージョ・アッサイ

III スケルツォ: アレグロ・ヴィヴァーチェトリオ

IV 終曲: アレグロ・モルト

★当初予定の出演者・曲目から変更になりました。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは41ページをご覧ください



こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

山田和樹 (指揮)



ベルリンを拠点に各国で活躍。2023年4月から英バーミンガム市交響楽団の首席指揮者兼アーティストック・アドバイザーに就任する。若手の抜擢に定評がある同響には2012年にデビュー、2018/19年シーズンから首席客演指揮者を務めてきた。音楽の様式美やメッセージ性をしなやかなタクトで紡ぐ逸材のひとりである。

1979年生まれ。東京藝術大学で松尾葉子、小林研一郎に師事した。2009年の第51回ブザンソン国際指揮者コンクールで優勝後、パリ管弦楽団、ドレスデン国立歌劇場管弦楽団、ベルリン放送交響楽団、BBC交響楽団、フィルハーモニア管弦楽団、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団他に客演。スイス・ロマンド管弦楽団の首席客演指揮者に迎えられた。2016/17年シーズンからモンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団の芸術監督兼音楽監督を務めている。2021年には、すでに常連の仏トゥールーズ・キャピトル劇場管弦楽団でフォーレ、コルンゴルト、プーランクの佳品を指揮した。

国内でも、東京混声合唱団音楽監督兼理事長、日本フィルハーモニー交響楽団正指揮者、読売日本交響楽団首席客演指揮者、横浜シンフォニエッタ音楽監督を兼務。録音も多い。

NHK交響楽団との初共演は2012年。定期公演デビューは2016年1月のAプログラム、2019年4月の定期公演Cプログラムでは河村尚子との矢代秋雄《ピアノ協奏曲》が賞賛を博す。2020年9月公演にも登場した。

[奥田佳道／音楽評論家]

佐々木典子 (ソプラノ)



日本を代表するソプラノのひとり。細やかな表情と豊かな表現力、滑らかで美しい響きを備えた声と、気品と存在感のある舞台姿で、とりわけモーツァルトやR. シュトラウスをはじめとするドイツ・オペラで高い評価を受ける。武蔵野音楽大学卒業後、ザルツブルクのモーツァルテウム音楽大学オペラ科を首席で卒業し、ウィーン国立歌劇場のオペラスタジオを経て同歌劇場の専属歌手に。ドミンゴ、パヴァロッティら伝説的な名歌手と舞台をともにし、第二の故郷であるウィーン的生活から舞台への多くのヒントを得た。帰国後はR. シュトラウス《ばらの騎士》のウエルデンベルク侯爵夫人、モーツァルト《フィガロの結婚》の伯爵夫人をはじめ数々のオペラの舞台で名演を残す傍ら、後進の指導にも情熱を注いでいる。

R. シュトラウス《4つの最後の歌》は、シュトラウス最晩年の傑作で、佐々木の十八番。R. シュトラウスは佐々木にとって「一番心の波動に共鳴する音楽」だという。伝説のプリマドンナが得

[加藤浩子／音楽評論家]

Program Notes | 広瀬大介

ベートーヴェン自身は、《交響曲第5番》よりも《第3番》を気に入っていた、というエピソードが伝えられている。小さなパーツをひたすら完璧に組み立てた《第5番》よりも、自分が好きなもの、理想とするものを思う存分披瀝した《第3番》ののびやかさを愛したのだろうか。19世紀末の交響曲ルネサンスに立ち向かったマーラーとシュトラウスも、《花の章》や《4つの最後の歌》では旋律美に耽溺している。筆の赴くままに描いた作曲家の歡びを、聴き手も満喫したい。

マーラー

花の章

グスタフ・マーラー(1860~1911)は自身の音楽を通じて、大きく変わろうとする時代精神そのものを写し取ろうとしていた。歌曲であれ、管弦楽曲であれ、作品は個々で完結することなく、相互に関連付けられる。歌曲の旋律は交響曲の主題となり(《さすらう若者の歌》第2曲→《交響曲第1番》第1楽章第1主題)、果ては歌曲が交響曲の楽章そのものとなる。1889年、《交響曲第1番》がブダペストで初演された際には、標題を伴った「2部から成る交響詩」であった。1893年、ハンブルクでの改訂版初演では、全5楽章に標題が付けられ、「交響曲様式による交響詩(音詩)」と題される。本作《花の章》はその第2楽章にあたる。しかし、1896年、標題とあわせて《花の章》はすべて削除された。以後は全4楽章の交響曲に仕立て直されたこの稿での演奏が、《交響曲第1番》として定着する。

確かに他の4つの楽章に比べれば、当時人気の詩「ゼッキンゲンのラッパ吹き」に触発された、やわらかなトランペットの独奏に誘われてはじまる《花の章》の音楽は、やや異質に感じるかもしれない。ハ長調のトランペット主題は2回変奏され、再現部とコーダを経て素朴に終わる。だが、むしろ我々が認識を改めるべきは、マーラー作品のみならずこの当時の交響詩が標題を描写することを追いかけた一種の音画である、という思い込みから自由になることだろう。作品でひとつの小宇宙を形作ろうとする壮大な作曲姿勢こそが、マーラーの作品をより一層魅力的なものへと高めている。

作曲年代	1884~1888年
初演	1889年11月20日、ブダペスト、作曲家自身の指揮
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット1、ティンパニ1、ハープ1、弦楽

4つの最後の歌

1948年、ジュネーヴ近郊のモントルーに滞在していたリヒャルト・シュトラウス(1864~1949)は、息子フランツの薦めにより、新たなオーケストラ伴奏歌曲の創作に挑む。5月6日に、アイヒェンドルフの詩による〈夕映えのなかで〉がまず完成。続いてヘルマン・ヘッセの詩から、7月に〈春〉、8月に〈眠りにつくとき〉、9月に〈九月〉を作曲。ドイツの自宅を離れた生活、非ナチ化裁判への出廷など、^{よわい} 齢80を越えたシュトラウスが晩年に至って味わった数々の辛酸は、驚くべき美しい音楽で昇華された。生前のシュトラウス自身が本作の演奏に立ち会うことはなく、その死後、1950年にフルトヴェングラーの指揮、フラグスタートの独唱によって初演された。

楽譜商ブージー&ホークスの社長エルンスト・ロートは、この4曲をまとめ、《4つの最後の歌》というタイトルで出版する。その際の曲順は、オーケストラの編成が徐々に大きくなるように配置されたとおもわれるが、シュトラウスがこの4曲をチクルスとして構想したわけではなさそうである。また、この4曲のあとに、ピアノ歌曲《あおい Malven》が11月23日に作曲されているため、正確には「最後」ではないのだが、出版当時はまだこの作品の存在は知られていなかった。

第1曲〈春〉はハ短調という暗い雰囲気の前奏に導かれて始まるが、歌が入り、詩の内容が明るくなるに従い、ハ長調からイ長調へと転調し、より明るい雰囲気になる。メリスマで歌われる「小鳥の歌」には、フルートが小鳥の声を模してこれに応える。頻繁な転調が印象的な〈春〉に比べると、第2曲〈九月〉はほぼニ長調で安定している。「花に降る雨」はヴァイオリンの下降する音型で、「ひらひらと舞い落ちる木の葉」はフルートの走句とヴァイオリンのスタッカートで表現される。第3曲〈眠りにつくとき〉の間奏では、前奏と同じ主題で始まるヴァイオリンの甘美なソロが夜の国でのまどろみを歌い、ソプラノもその旋律を歌い継ぐ。どこまでも広がるような空を描写する前奏が印象的な第4曲〈夕映えのなかで〉。ここで初めて登場するティンパニの深みある音が、全曲中でも最も雄大な風景を描きだす。フルートで描かれた2羽のひばりが空を舞い、最終行の「これが死というものか(Ist dies etwa der Tod?)」では、《交響詩「死と変容(浄化)」》における浄化のモチーフが鳴り響く。

作曲年代	1948年5月~9月
初演	1950年5月22日、キルステン・フラグスタートの独唱、ヴァイルヘルム・フルトヴェングラー指揮、フィルハーモニア管弦楽団
楽器編成	フルート3(ピッコロ1)、ピッコロ1、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、バス・クラリネット1、ファゴット3(コントラファゴット1)、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ1、ハーブ1、チェレスタ1、弦楽、ソプラノ・ソロ

交響曲 第3番 変ホ長調 作品55「英雄」

若き日のルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン(1770~1827)の創作中、《バレエ音楽「プロメテウスの創造物」》(1801年初演)の重要性は際立っている。プロメテウスは、人間に火を与えたために神々の怒りを買ひ、^{もうきん}猛禽に内臓を日々つばまれる永遠の責め苦を負う人物としてのイメージが強い。だが、振付師ヴィガノーとベートーヴェンが描こうとするプロメテウスは、ものを知らぬ民衆(創造物)に対して高尚な芸術と学問を授けるという、啓蒙時代の君主や哲学者としての役割を負わされている。終曲(第16曲)で用いられている旋律は、《ピアノ変奏曲変ホ長調》(作品35)でも、次世代を救う、新しい時代に^{よきあ}相応しい革命の高貴な精神を象徴する音楽として、かたちを変えて使われた。

このプロメテウスは、ハプスブルク帝国のイタリア占領に対して果敢に立ち向かう若きフランスの英雄、ナポレオン・ボナパルトのイメージをかたどったものでもある。その声望はウィーンでも高く、ベートーヴェンも大きな共感を抱いていた。《ピアノ変奏曲》を作曲直後の1803年、《交響曲第3番》のスケッチが最初の3つの楽章だけ書き付けられた。第4楽章の主要部分には、《プロメテウス》終曲とこの《変奏曲》の素材を用い、新しい時代の英雄を寿ぐことが意図された。この間、1804年5月にはナポレオンが皇帝に任ぜられ、12月には戴冠式が挙行され、ベートーヴェンが失望したことは有名だろう。「英雄交響曲 Sinfonia eroica」、副題に「ある偉大な人物の思い出を記念して作曲された」と付された作品は、まだナポレオンが「英雄」として光り輝いていた、まさに人類に知性と芸術を与える「プロメテウス」であった時代の思い出を描いたもの、ということになる。

第1楽章は、ソナタ形式の各部分、提示部・展開部・再現部に加え、終結部が各部とほぼ同じ長さを有し、それまでの交響曲の概念を覆す。音楽の世界にも「革命」をもたらそうとしたベートーヴェンの意気込みが感じられよう。第2楽章において死した英雄が葬られる「葬送行進曲」が奏でられるものの、第3楽章で勇壮に、3本のホルンとともに再び復活してみせるのは、プロメテウスが^{かこく}苛酷な責め苦を与えられつつも、再び^{よみがえ}蘇ることを念頭に置いているのではなからうか。変奏曲による第4楽章は、理想と調和の世界が徐々に広がっていく様を描いているようにも見える。ただ、闘争を経て新たな高みへと至る、という英雄的なイメージをソナタ形式で描くことを放棄し、すでに過去の人となった英雄の思い出を回想するかのような変奏曲には、「かつて英雄だったひとがいた」という過去形の響きもどこかに宿しているように聞こえてしまう。

作曲年代	1803年5、6月頃~10月頃
初演	[公開初演]1805年4月7日、アン・デア・ウィーン劇場、作曲家自身の指揮
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン3、トランペット2、ティンパニ1、弦楽

R. シュトラウス

4つの最後の歌

歌詞対訳

訳◎広瀬大介

B

15 & 16, DEC. 2021

I Frühling

In dämmrigen Grüften
träumte ich lang
von deinen Bäumen
und blauen Lüften,
von deinem Duft
und Vogelsang.

Nun liegst du erschlossen
in Gleiß und Zier,
von Licht übergossen
wie ein Wunder vor mir.

Du kennst mich wieder,
du lockst mich zart,
es zittert durch all meine Glieder
deine selige Gegenwart!

(Hermann Hesse)

I 春

夜明け前の 墓の中で
長いこと 夢見たのは
あなたの樹々と
青い空
あなたの息吹と
鳥の歌

あなたは ヴェールを脱ぎ棄て
まばゆき 装いを凝らし
あふ溢れんばかりの 光の中から
奇蹟のごとく 現われた

いま再び あなたに会える
その 甘美ないざないに
からだ 軀という躰が ふるえる
あなたとともに在る 至福の喜び

(ヘルマン・ヘッセ)

II September

Der Garten trauert,
kühl sinkt in die Blumen der Regen.
Der Sommer schauert
still seinem Ende entgegen.

Golden tropft Blatt um Blatt
nieder vom hohen Akazienbaum.
Sommer lächelt erstaunt und matt
in den sterbenden Gartentraum.

Lange noch bei den Rosen
bleibt er stehen,
sehnt sich nach Ruh.
Langsam tut er die
müdigwordnen Augen zu.

(Hermann Hesse)

III Beim Schlafengehen

Nun der Tag mich müd gemacht,
soll mein sehnliches Verlangen
freundlich die gestirnte Nacht
wie ein müdes Kind empfangen.

Hände, laßt von allem Tun,
Stirn, vergiß du alles Denken,
alle meine Sinne nun
wollen sich in Schlummer senken.

II 九月

庭は 打ちひしがれ
降りそそぐ冷雨が 花へと沈む
寒さにふるえながら
静かに 終わりの時を迎える 夏

ひとひらの 金色の葉
アカシアの樹から 舞い落ちる
おどろき 力なげに
死にゆく庭に 微笑みかける 夏

あのバラの傍らで いまひととき
安らぎへ
思いを馳^はせる 夏
そして 疲れ果て
ゆつくりと その眼を閉じる

(ヘルマン・ヘッセ)

III 眠りにつくとき

昼に疲れ果てた いま
心からの 望みは
星降る夜に 抱かれること
遊び疲れた 子どものように

手を使うのは やめよ
頭を使うのも やめよ
すべての感覚を
まどろみへと 沈ませよ

Und die Seele, unbewacht,
will in freien Flügen schweben,
um im Zauberkreis der Nacht
tief und tausendfach zu leben.

(Hermann Hesse)

見張るものなき 魂も
自由な翼を得て 羽ばたけ
夜の 魅惑の世界で
深く 千代に生きるため

(ヘルマン・ヘッセ)

IV Im Abendrot

Wir sind durch Not und Freude
gegangen Hand in Hand,
vom Wandern ruhen wir
nun überm stillen Land.

Rings sich die Täler neigen,
es dunkelt schon die Luft,
zwei Lerchen nur noch steigen
nachträumend in den Duft.

Tritt her und laß sie schwirren,
bald ist es Schlafenszeit,
daß wir uns nicht verirren
in dieser Einsamkeit.

O weiter, stiller Friede!
So tief im Abendrot,
wie sind wir wandermüde—
ist dies etwa der Tod?

(Joseph von Eichendorff)

IV 夕映えのなかで

苦しい時も ^{うれ}嬉しい時も
手に手をとって 歩んだふたりは
いま ^{きすら}流離いをやめ
静かな田舎を見下ろしている

^{たにあい}谷間に 囲まれて
夕闇があたりを覆う
夕空には 二羽のひばりが
夜の夢を追って舞う

こちらへおいで 鳥は飛ぶにまかせ
もうすぐ 眠りの時間
道を見失わぬよう
ここには ただふたりきり

広やかな 静かな やすらぎ
かくも 深き夕映え
流離いにも 飽き果てた
これが 死というものか

(ヨーゼフ・フォン・アイヒENDORFF)

PROGRAM

池袋



第1946回

東京芸術劇場

12/10 金 7:30pm

12/11 土 2:00pm

指揮

ワシーリ・ペトレンコ

チェロ

ダニエル・ミュラー・ショット*

コンサートマスター

伊藤亮太郎

[開演前の室内楽(池袋Cプログラム限定)]

10日(金)6:45pm~/11日(土)1:15pm~

ヴァイオリン:横溝耕一、猶井悠樹、宮川奈々、倉富亮太 ヴィオラ:村上淳一郎、村松 龍 チェロ:藤森亮一、中 実穂
エネスコ/弦楽八重奏曲 ハ長調 作品7—第1楽章

※演奏はご自身の座席でお楽しみください。 ※演奏中の客席への出入りは自由です。

チャイコフスキー

ロココ風の主題による変奏曲 作品33*

[18']

ムソルグスキー(ラヴェル編)

組曲「展覧会の絵」[35']

プロムナード

I ノーム

プロムナード

II 古い城

プロムナード

III チュイルリーの庭

IV ブイドロ

プロムナード

V 卵のからをつけたひなの踊り

VI サミュエル・ゴールドデンベルクとシュミイレ

VII リモージュの市場

VIII カタコンブ

IX バーバ・ヤガーの小屋

X キエフの大きな門

※ この公演に休憩はございません。
あらかじめご了承ください。

後援:豊島区

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは41ページをご覧ください



こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhksso.or.jp/enquete.html>

ワシーリ・ペトレンコ(指揮)



ワシーリ・ペトレンコは1976年にレニングラード(現 Санктペテルブルク)で生まれ、 Санктペテルブルク音楽院に学んだ後、ロシアでオペラ指揮者としての経験を積んだ。2006年にはイギリスのロイヤル・リヴァプール・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者に就任し、本年夏に退任(現在は桂冠指揮者)するまでの長きにわたってこの楽団の発展に尽力した一方、2013年からはオスロ・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者も兼任し、2020年までの任期の間に大きな功績を残している。2021年秋にはスヴェトラノフ記念ロシア国立交響楽団の芸術監督およびロンドンのロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団の音楽監督に就任、今後のますますの活躍が期待されている。これまで世界各地のオーケストラに客演して高い評価を得ており、N響とも2011年1月の定期公演で初共演、ベートヴェンの《ピアノ協奏曲第1番》(独奏は小菅優)とチャイコフスキーの《交響曲「マンフレッド」》を指揮し、豊かな表情に富んだスケールの大きな骨太の音楽をN響から引き出して聴衆を魅了した。10年ぶり2度目の共演となる今回のプログラムは、チャイコフスキーの《ロココ風の主題による変奏曲》とムソルグスキー(ラヴェル編曲)の《組曲「展覧会の絵」》といった彼の母国ロシアの曲を並べたものだけに、深い共感に裏付けられた力感あふれる演奏が期待できよう。

[寺西基之／音楽評論家]

ダニエル・ミュラー・ショット(チェロ)



ドイツのミュンヘン生まれのチェリスト。ワルター・ノータス、ハインリヒ・シフ、スティーヴン・イッサーリスに師事したほか、ムスティスラフ・ロストロポーヴィチに1年間個人的に学んでいる。1992年、15歳のときにモスクワで開かれた「若い音楽家のためのチャイコフスキー国際コンクール」で優勝して脚光を浴びた。

ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、ロンドン交響楽団、ニューヨーク・フィルハーモニックなど、世界の名だたるオーケストラと共演を重ねるほか、室内楽でも意欲的に活動している。

子供時代よりバツハに愛着を持ち、デビューアルバムにバツハの《無伴奏チェロ組曲》を録音する一方、アンドレ・プレヴィンやペーター・ルジツカからチェロ協奏曲を献呈されるなど、レパートリーはバロック音楽から現代音楽まで幅広い。レコーディングにも積極的で、メジャー・レーベルなどから多数のアルバムをリリースしている。

N響とは2011年のプレヴィン指揮のアメリカ公演で初共演を果たし、今回が2013年に続く3度目の共演となる。

使用楽器は1727年製マッテオ・ゴフリラー“Ex Shapiro”。

[飯尾洋一／音楽ジャーナリスト]

Program Notes | 中田朱美

ときに作者のあずかり知らぬ処で手を加えられた楽曲が、レパートリーとして燦然^{さんぜん}と輝いていることがある。本日演奏される2曲はまさにそうした作品である。チャイコフスキーがここまでの寛容さで原曲の無断改訂を許した《ロココ風の主題による変奏曲》はもはや存在自体が特異である。またラヴェルの管弦楽版《展覧会の絵》は原作者ムソルグスキー再評価の先鞭^{せんぺん}をつけた存在にあたる。ともに原作者との創造的な対話はもちろん、「原作」のもつ威光を乗り越えるだけの説得力が内包されている。

チャイコフスキー

ロココ風の主題による変奏曲 作品33

《ロココ風の主題による変奏曲》はピョートル・イリイチ・チャイコフスキー(1840～1893)による独奏チェロとオーケストラのための変奏曲である。主題の典雅な雰囲気からは、敬愛していたモーツァルトなど古典派へのオマージュが強く感じられる。

チャイコフスキーは作曲時よりモスクワ音楽院の同僚だったドイツ人チェリスト、ヴィルヘルム・フィッツェンハーゲン(1848～1890)に意見を求め、実際、清書譜に残るチェロ声部の一部は彼の手に拠っている。彼は作品の献呈も受け、1877年の初演で独奏も務めた。翌年、ユルゲンソン社から楽譜が出版された際、フィッツェンハーゲンはチャイコフスキーから一任されていると言って改訂を押し通し、オーケストラには一部、独奏パートはほぼ全曲にわたり、細かく演奏指示を書きこんだ。さらには著者稿の「序奏、主題、8つの変奏、コーダ」を、「序奏、主題、第1→第2+第6→第7→第5→第6+第2→第3→第4変奏、コーダ」(第8変奏は省略)に、つまり終盤で、哀悼歌のような第3変奏から超絶技巧の第4変奏へと劇的に転じる展開に変更した。校正時は黙認していたチャイコフスキーであったが、のちにさすがに不満を口にしたようである。しかし1956年に著者稿が原典版として出版された後も、現在に至るまでフィッツェンハーゲン版は愛用されている。本日の演奏もこの版による。

作曲年代	[原曲] 1876年12月～1877年 [編曲] 1878年初頭頃
初演	[原曲] 1877年11月30日(ロシア旧暦18日)、フィッツェンハーゲン独奏、モスクワ、ロシア音楽協会第3回「交響楽の集い」、ニコライ・ルビンシテイン指揮
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、弦楽、チェロ・ソロ

組曲「展覧会の絵」

クーセヴィツキー(1874~1951)は20世紀音楽界において祖国ロシアの作曲家のみならず国際色豊かな作曲家たちを庇護し、その創作を支えた。友人モーリス・ラヴェル(1875~1937)もその恩恵を受けたひとりである。指揮者でもあったクーセヴィツキーは1921年からパリで自身の交響楽演奏会を開催し、翌年、ラヴェルにモデスト・ムソルグスキー(1839~1881)の《ピアノ組曲「展覧会の絵」》(1874)の管弦楽編曲を委嘱する。

原曲は急逝した建築デザイナーで画家のガルトマン(ハルトマンとも/1834~1873)の回顧展に触発されて創られた。〈プロムナード〉で絵に向かって歩を進めるムソルグスキーの目線に始まり、世界旅行も装いつつ、さらに実はロシアの普遍的世界を確認するという複層的な構成に裏打ちされている。

ラヴェル版の魅力は何と言ってもその色彩感であろう。各フレーズが特定の楽器で牽引され、一貫した個性的色合いを放つ。冒頭の〈プロムナード〉からその魅力は光り、ファンファーレの余韻を満喫した後、弦楽器+木管楽器を経て総奏へ。第1曲〈ノーム〉はヨーロッパに伝わる小人妖怪。第2曲〈古い城〉はアルト・サクソフォーンの旋律が独特なうらぶれた感を醸す。第3曲〈チュイルリーの庭〉は原曲副題「遊びの後の子どもたちの喧嘩」の通り。第4曲〈ブイドロ〉はポーランド語で「牛に曳かせた荷車、畜生」などを意味する。クライマックスで轟く小太鼓が原曲に込められた緊迫感を増長する。第5曲〈卵のからをつけたひなの踊り〉はバレエ用衣装のためにガルトマンが描いたデッサンにもとづく音画的なユーモア。第6曲の〈サミュエル・ゴールデンベルクとシュミイレ〉も裕福なユダヤ人と貧しいユダヤ人を描いたガルトマンの一对の絵にもとづく。原曲ではメゾ・フォルテで始まるシュミイレの震えが、ラヴェル版では弱音器つきトランペットのフォルティッシモという独特な音色で奏でられる。第7曲〈リモージュの市場〉は生命感あふれる朝市の様子。突然、第8曲〈カタコンブ〉で地下墓地の死の世界に転じる。〈死せることばによる死者への語りかけ〉は〈プロムナード〉にもとづく最後の変奏曲。第9曲〈バーバ・ヤガーの小屋〉のヤガー婆さんはロシアの有名な妖怪。白に乗って飛翔し、達するのが第10曲〈キエフの大きな門〉である。古代キエフ・ルーシ、教会の鐘や聖歌、〈プロムナード〉、さらにこれに呼応する民謡的な調べなど、ロシアの源泉が充満する。

作曲年代	原作のピアノ組曲は1874年、ラヴェルによるオーケストラ編曲版は1922年
初演	編曲初演は1922年10月19日、パリ・オペラ座、セルゲイ・クーセヴィツキー指揮
楽器編成	フルート3(ピッコロ2)、オーボエ3(イングリッシュ・ホルン1)、クラリネット2、バス・クラリネット1、アルト・サクソフォン1、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、グロックンシュピール、チューブラー・ベル、シロフォン、トライアングル、ラチェット、ムチ、小太鼓、大太鼓、シンバル、サスペンデッド・シンバル、タムタム、ハーブ2、チェレスタ1、弦楽

N響百周年史

第二十四回「公益放送」は交響楽団を欲する！

片山杜秀
Morihide Katayama

二〇二六年のN響創立百周年に向け、NHK「クラシックの迷宮」のパーソナリティとしても馴染みの思想史研究者で音楽評論家の片山杜秀さんが、時代背景とともにN響の歴史をひもときます。今回はいよいよ東京放送局が開局。NHKの前身です。到来した「ラヂオの時代」にまず必要とされたもの、それがオーケストラでした。

「ラヂオの時代」、始まる

3月22日。放送記念日である。1943(昭和18)年に日本放送協会(NHK)がそう定めた。同協会は、それぞれが独立して存在していた3つの社団法人、すなわち東京放送局と大阪放送局と名古屋放送局を統合して、1926(大正15)年8月20日に誕生した。3つの放送局のうち、いちばんはじめにできたのは社団法人東京放送局である。前回触れたとおり、設立日は1924(大正13)年11月29日。続いて1925年1月に社法人名古屋放送局が、2月に社法人大阪放送局がそれぞれ設立されたのだが、仮放送にも本放送にも最初に至ったのは、やはり準備の少し早かった東京放送局であった。その仮放送の開始日が同年3月22日。その日をもって日本のラジオ放送の始まりとし、放送記念日とされている。

山田耕筰、試験送信のしんがりを務める

でも実は仮放送の前があった。「試験送信」である。東京放送局は1924(大正13)年暮れの理事会で、仮放送開始の目標日を3月1日と公表した。ついに日本でも欧米のようにラジオが始まるのか。世間の期待は高まる。新聞雑誌は「開始日は3月1日」と連呼。その日に合わせてラジオを売ろうと、電機会社の広告も出まわる。ところが、芝浦の仮放送局の設置はギリギリだった。通信省が仮放送局の設置を認可したのは2月の末。送信設備^{ていしん}やスタジオの用意はいちおう3月1日に間に合はしたのだが、現場はあまりに雑然とし、混乱している。検査に訪れた通信省の役人は驚いた。この状態で

まともに送波できるとはとても思われぬ。仮放送開始は認められない。しかし、3月1日に番組が何も放送されなかったら、社会問題になるだろう。そこで仮放送の前段階としての「試験送信」を認めるという苦肉の策がとられた。

3月1日は日曜日である。午前9時半、「試験送信」は始まった。30分から1時間程度の音楽番組を4本、時間帯を分け、朝から夜まで、散発的に「送信」した。朝の初っ端しよばなは海軍軍楽隊の出演。日本の放送音楽番組事始めは軍楽隊の生放送ということになる。海軍軍楽隊は明治の初めからドイツ式吹奏楽の伝統を有するが、大正時代のレパートリーにはイギリスものが多かった。記念すべき1曲目もイギリスの軍楽隊のレパートリーだった。《行進曲「ボギー大佐」》(1914)で知られるケネス・アルフォードの第1次世界大戦中の作品、《行進曲「後甲板にて」》である。これはおそらく吹奏楽で演奏されたのであろう。そのあとおそらく弦楽器が入って、管弦楽になった。陸軍も海軍も当時の軍楽隊は弦楽器も練習して、軍楽隊の交響楽団化に取り組んでいた。アントン・ルビンシテインとマスネの曲をやった。そこでしばらく休止。正午から再開して、邦楽のプログラムになる。箏の宮城道雄や尺八の吉田晴風せいふうらが出演し、《六段》や《千鳥の曲》を披露。それからまた少しの休憩があつて、午後2時からは、来日したばかりの「イタリア歌劇団」を名乗る団体の外国人歌手たちが、ヴェルディの《椿姫》やプッチーニの《蝶々夫人》からのアリアを、ピアノ伴奏で歌った。

そのあとはだいぶん時間があく。午後8時からである。まずは長唄の《越後獅子》。そして「試験送信開始日」の大トリは、山田耕筰こうさくだった。山田がピアノの独奏と伴奏を務め、名歌手、外山國彦くにひこ(外山雄三の父)が独唱する、山田の歌曲とピアノ曲ばかりのプログラムによっ

て、「試験送信」の初日は終了した。

全体の放送時間の分量としては、邦楽と洋楽が半々か、洋楽が優勢か。公共放送は娯楽よりも教養を重視するものでなければならないという、政府の基本方針にも沿うつもりだったのだろう。大正後期の日本人にとっては、邦楽のほうが耳馴染みじみがよい。対して、西洋クラシック音楽は、大正時代のうちに、特に都会の日本人にはずいぶんと浸透してきたとはいえ、全国的に考えれば、まだまだ敷居が高い。しかも、西洋の文物をよく学習して取り入れるほどに、日本は一流の近代文明国となるという、明治以来のテーマは、大正のこの国に、ますますしっかりと受け継がれている。よって、この記念すべき日に選ばれた管弦楽と歌劇と歌曲とピアノ曲のプログラムは、いずれも娯楽というよりも、教養としての性質を強く有する。公共放送の音楽番組では西洋クラシック音楽が重視されるべきという、今日もそれなりに受け継がれているだろう。「常識」は、「試験送信開始日」にはすでに確立されていた。そう考えてよい。しかもそこにはいきなり山田耕筰こうさくがしっかりと食い込んで、いちばん美味おいしい時間帯を獲得していたのである。

公共放送とクラシック音楽

この3月1日から3週間後の同じく日曜日、ついに逋信省のお墨付きすみを得て、「試験送信」は仮放送に格上げされる。放送記念日とされる3月22日の到来である。午前10時からは、東京放送局総裁の後藤新平の挨拶と、逋信大臣の犬養毅いぬかいつよしの祝辞。もちろん生放送である。ここでの後藤の話の中身が重い。公共放送の理念を宣言している。そこで後藤は、公共放送

とは公益放送であり、公益放送とは純然たる娯楽とはかなり距離を置くものだと、しつこいほどに語る。公益放送とは「科学の智識と公衆の道徳」に立脚せねばならない。それは映画館や演芸場と同じであってはならない。誰しもラジオを聴けば、政治や経済に対しても、文化や芸術に対しても、より高さを求めたくなる。ラジオがあると国柄がよくなる。そういう媒体になってこそその公益放送ではないか。

後藤は話を具体的にする。ラジオの職能の第1は「文化の機会均等」である。「御主人が外に於て諸種の文化的利益を享けつつある間に、家にある者は文明の落伍者たる場合があります。或る階級の者が受くる便益を他の階級の者が享けざる場合も亦無きにしもあらず。然るに我がラジオは、都鄙と老幼男女と各階級相互との障壁区別を撤して、恰も空気と光線との如く、あらゆる者に向つて其の電波の恩を均等に且つ普遍的に提供する」。

後藤は続ける。ラジオの第2の職能は「家庭生活の革新」である。家庭で一家が等しく同じ文化的・芸術的なものを享受することによって、家族は日常的に「科学の智識と公衆の道徳」に立脚した一体感を体験できるようになるという。「ラジオの機械を囲むで」こそ、国民多数が「所謂一家団欒家庭生活の真趣味を味はへる」ようになるともいう。家族の人間関係は、学校や会社のそれとは次元が違う。もっと密接である。密接な人間関係はお互いの感覚を写しやすい。相互的な感化の場である。学校や会社よりも共感力が強い親密空間が家庭である。ということは、家庭にいながらにして、その空間が学問的・文化的・芸術的になれば、親子や兄弟の心の響き合いの中で、知識教養、文化芸術が、限りなく深まってゆくだろう。学校や会社よりも力強く浸透してゆくだ

ろう。放送こそが国民の知的水準を高めるいちばんの早道なのだ。

さらに後藤の演説はラジオの第3の職能に及ぶ。それは「教育の社会化」だ。ラジオは、新しく、かつ大規模な学校であるという。何しろ、高等教育まで進む国民の数が小学校の同じ学年の何十分の一に過ぎない時代である。教育の至らなさが国運のさらなる隆昌を阻んでいる面があるだろう。ならば、対策としては、中等・高等教育の拡充が考えられるが、就学年数を長くすると就業年齢を後ろに倒すことである。仮に高等教育機関を増やしてみたところで、子女を上級学校に進学させられる余裕のある家庭がたくさんなければ意味がない。そのためには日本の経済成長と中間層の育成が不可欠で、そのためには教育程度の高い優秀な国民が多く必要で……。これでは話が堂々めぐりではないか。そこを抜け出さなければ、無教育な労働大衆が貧困の淵に落ちて国家への不満を募らせるばかりとなろう。そうなれば日本も、後藤新平の付き合いの深い、労農露西亜こそソ連と同じく、社会主義革命の道を辿るようになるかもしれない。

この難関を打破する方法！ それこそが公共放送による公益的な教育放送の普及である。教育番組をなるべく多く編成する。将来的には教育番組専門の第2放送も検討しようだろう。そうすれば働く者への教育機会は飛躍的に拡大する。中等・高等教育への道を閉ざされた者に市民的教養・国民的倫理を与えることが、公益放送の大使命である。最低、受信料だけは払ってもらわねばならないが。

以上3つの職能はかなり相重なる。が、結局どのポイントも、西洋クラシック音楽を番組編成の要のひとつとすることを後押しするだろう。高尚な文化を家庭に与え、民衆の蒙を啓

くと言っても、あくまでラジオである。絵画彫刻というわけにはいかないし、ラジオ・ドラマの分野は期待されるにしても、耳からだけなのだから、生の演劇に比べれば隔靴搔痒な部分は残る。となると、声だけで成立する講演・講義・朗読の類か、音楽が優先されるだろう。そして音楽番組について踏み込んで考えてみると、公益の優先と民度の上昇と結びつけ、民度の上昇とは西洋近代への理解力の向上をかなり意味するという、その時代の価値観に従えば、西洋クラシック音楽重視の姿勢が自ずと導かれるであろう。

師弟決裂

後藤総裁による3月22日の仮放送開始の挨拶は、3月1日の「試験送信」の開始日の番組編成の意味を確認しているのだ。もしも、聴取者として期待される一般民衆の嗜好に靡いて、ラジオの人気取り、聴取率最優先主義で番組を編成すれば、浪曲や端唄・小唄等々が流れるのが、理にかなっている。事実、放送局開局初期に行われた、受信契約者に対する放送希望番組調査では、三味線音楽や民謡・俗曲を流してほしいとの声が、西洋クラシック音楽よりも桁違いに多かった。

ところが東京放送局は言わば公益放送主義を教養主義や西洋クラシック音楽優先主義と結びつけた。公共放送の意義づけを高尚な文化芸術を味方にするのではなく、その文化芸術はラジオという媒体の性質ゆえに何は

さておき音楽になり、宮城道雄のような西洋クラシック音楽に影響された新傾向の芸術的邦楽や、歌劇とか管弦楽とか器楽とかに力を注いでゆく。そんな理屈である。

そうした動向を機敏に察し、「試験送信」の段階から放送局に入り込んでいった山田耕筈の感度と行動力や、恐るべし。山田は、ハルビンからの白系ロシア人音楽家招聘工作を円滑に行うべく“ロシア通”の政治家、後藤新平に接近し、その伝手を活かして、放送の歴史に劈頭から食い込んだ。けれど、記念すべき3月22日には山田も近衛秀麿も彼らのオーケストラも出演していない。開幕日前だった日露交驩(交歓)管弦楽演奏会の準備に追われていたからである。仮放送の開幕を飾ったのは、軍楽隊や東京音楽学校(現東京藝術大学音楽学部)の人々だった。

そして夏が来る。7月12日、東京放送局はついに本放送を開始する。朝の最初の番組は天気予報。もちろん、そのあと大活躍したのは、日露交驩管弦楽演奏会を大成功させたばかりで意気上がる山田と近衛である。けれどこの日、師弟はタッグを組んで登場したのではなかった。それぞれが別々のオーケストラを率いて、別々の時間帯に出演した。二人の関係はいったいどうなっていたのか。

文 | 片山杜秀(かたやま もりひで)

思想史研究者、音楽評論家。慶應義塾大学法学部教授。2008年、『音盤考現学』『音盤博物誌』で吉田秀和賞、サントリー学芸賞を受賞。『クラシックの核心』『ゴジラと日の丸』『近代日本の右翼思想』『未完のファシズム』『見果てぬ日本』『尊皇攘夷』ほか著書多数。

次回予告

両雄並び立たず。近衛秀麿は日本のオーケストラの夢をとともに追いつけてきた師・山田耕筈と袂を分ち、新交響楽団を結成します。

2022年1月定期公演の聴きどころ

公演企画担当者から

名曲の条件は時代によって移り変わるが、「一度聴いたら忘れられないメロディ」を真っ先に挙げる人は多いだろう。来月お送りする3つのプログラムには、そんなメロディの魅力が詰まっている。

今最も注目を集める2人の俊英が 甦らせるロシア・ポーランドのメロディ

原田慶太楼はアメリカを第2の故郷とするが、実はデビューを果たしたロシアとの結びつきも強い。[池袋Aプログラム]は、ロシア、ポーランドの舞踊・民俗音楽が共通テーマである。最初に、ショパンの原曲で親しまれる名作バレエ《レ・シルフィード》から。1907年の初演で用いられたのは、有名な《軍隊ポロネーズ》を含むガラスノフ編曲版だが、その2年後、若きストラヴィンスキーがこのバレエのために《夜想曲 変イ長調》を編曲し、世に出たことはあまり知られていない。今回は希少な演奏機会となる。

《火の鳥》は翌年、同じディアギレフの依頼で書かれた出世作。《ホロヴォート舞曲》や

《子守歌》など、ロシア民謡由来の素朴で印象的なメロディが、曲の人気を不動のものにしている。

《ポーランド幻想曲》を弾くのは、原田の盟友であり、先のショパン国際ピアノ・コンクールで第2位に入賞した反田恭平。情熱的な創作主題と、ポロネーズ、クラコヴィアクといったポーランドの舞踊リズムが交錯する。人気ピアニストだったパデレフスキの19世紀的ショーピースを、反田はどのように現代に甦らせるのだろうか。

色彩の魔術師による名演再び プロコフィエフの煌めく旋律美

自作を「機械的でグロテスク」と特徴づけたプロコフィエフ。一方で音楽学者タラスキンのように、彼のメロディ・メーカーとしての才能を高く評価する声も。[Bプログラム]には、そんなプロコフィエフの旋律美が満ちている。

《歌劇「戦争と平和」》をはじめ、オペラやバレエにちりばめられたワルツの数々は、滅びゆくロシア貴族社会の気品をたたえつつ、翳り

を帯びた光沢を放つ。

《交響曲第5番》が高い人気を誇るのも、何よりメロディの美しさゆえか。中でも第3楽章は、《バレエ音楽「ロメオとジュリエット」》のバルコニーの情景を彷彿とさせ、聴き手を夢幻の世界へと誘い込む。この曲を得意とするトゥガン・ソヒエフは2013年にも名演を聴かせており、リクエストに応じての再演となった。

ピアノのハオチェン・チャンは、クールで理知的なトーンを演奏の基調とするが、ここぞという時には一気にテンションを上げ、情感をほとばしらせる。《ピアノ協奏曲第3番》でも、そうした知と情の絶妙なバランスが味わえるに違いない。

ロマンティックな表現を信条とする ソヒエフのブラームス《第3番》

[池袋Cプログラム]のブラームス《交響曲

第3番》も、ソヒエフ手中のレパートリー。チェロが朗々と歌う有名な第3楽章は、映画やポピュラーソングにたびたび引用されてきた。時には拍節を刻むのを止め、ゆったりした腕の動きだけでフレーズを自在に伸縮させるソヒエフ。「音楽は呼吸」と言い、ロマンティックな表現を信条とするマエストロの美学が、前面に打ち出された演奏となりそう。

ブラームスの友人ブルッフにとっても「メロディは音楽の魂」だった。伝説の名人アウアーのストラディヴァリを受け継いだワディム・グルズマンが、名器の深い音色を存分に生かしながら、アウアーの愛した《ヴァイオリン協奏曲第1番》を奏でる。

[西川彰一/NHK交響楽団演奏制作部長]

※mélomane : フランス語で「音楽愛好家」の意

池袋

A

1/15 土
6:00pm

1/16 日
2:00pm

東京芸術劇場

ショパン(グラスノフ編)/軍隊ポロネーズ イ長調

作品40-1(管弦楽版)

ショパン(ストラヴィンスキー編)/夜想曲 変イ長調

作品32-2(管弦楽版)

パデレフスキ/ポーランド幻想曲 作品19*

ストラヴィンスキー/バレエ音楽「火の鳥」(1910年版)

指揮:原田慶太楼

ピアノ:反田恭平*



Hiroyuki Nishida

B

1/26 水
7:00pm

1/27 木
7:00pm

サントリーホール

プロコフィエフ/歌劇「戦争と平和」—「ワルツ」

プロコフィエフ/ピアノ協奏曲 第3番 ハ長調 作品26

プロコフィエフ/交響曲 第5番 変ロ長調 作品100

指揮:トゥガン・ソヒエフ

ピアノ:ハオチェン・チャン



Tugan Sokhiev

池袋

C

1/21 金
7:30pm

1/22 土
2:00pm

東京芸術劇場

ブルッフ/ヴァイオリン協奏曲 第1番 短調 作品26

ブラームス/交響曲 第3番 へ長調 作品90

指揮:トゥガン・ソヒエフ

ヴァイオリン:ワディム・グルズマン



Vadim Gluzman

チケットのご案内(定期公演 2021年9月～2022年6月)

1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報をご覧ください。

発売開始日 [11:00amからの受付]	12・1月	発売中
	2月	発売延期(新たな発売日は2022年1月中旬までに発表予定)
	4・5・6月	3月2日[水](会員) / 3月6日[日](一般)

※今後の状況によっては発売日が変わる場合があります

※最新の情報はN響ホームページ等でご確認ください

定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10～30%お得です！(割引率は公演や券種によって異なります)

※ Aプログラム、CプログラムはNHKホール改修事に伴い、会場をNHKホールから東京芸術劇場(池袋)に移して、「池袋Aプログラム」「池袋Cプログラム」として行います

※ Bプログラムはサントリーホール改修事に伴い、2022年4月公演を休止するため全8回となります。シーズン会員券の販売はございません

※ 池袋Cプログラムは2021～22シーズンから会員券の料金を変更させていただきます

発売開始日 [11:00amからの受付]	年間会員券、シーズン会員券(Autumn)	販売終了
	シーズン会員券(Winter)	発売中
	シーズン会員券(Spring)	2月22日[火](会員) / 2月25日[金](一般)

※今後の状況によっては発売日が変わる場合があります

料金(税込)

券種	S	A	B	C	D	D(ユースチケット)
年間会員券(9回) [池袋A]	¥65,970 (¥7,330)	¥56,610 (¥6,290)	¥44,010 (¥4,890)	¥35,730 (¥3,970)	¥27,540 (¥3,060)	¥9,000 (¥1,000)
年間会員券(8回) [B]	¥58,640 (¥7,330)	¥50,320 (¥6,290)	¥39,120 (¥4,890)	¥31,760 (¥3,970)	¥24,480 (¥3,060)	¥8,000 (¥1,000)
年間会員券(9回) [池袋C]	¥56,610 (¥6,290)	¥49,725 (¥5,525)	¥39,780 (¥4,420)	¥32,130 (¥3,570)	¥24,480 (¥2,720)	¥8,820 (¥980)

券種	S	A	B	C	D	D(ユースチケット)
シーズン会員券(3回) [池袋A]	¥23,820 (¥7,940)	¥19,860 (¥6,820)	¥15,570 (¥5,190)	¥12,540 (¥4,180)	¥9,480 (¥3,160)	¥3,900 (¥1,300)
シーズン会員券(3回) [池袋C]	¥19,890 (¥6,630)	¥17,520 (¥5,840)	¥14,010 (¥4,670)	¥11,250 (¥3,750)	¥8,550 (¥2,850)	¥3,780 (¥1,260)

※()内は1公演あたりの単価

WEBセレクト3+

好きな公演を3つ以上セレクトすると、1回券がお得になります。Autumn(9～11月)、Winter(12～2月)、Spring(4～6月)の各シーズン内の公演(9プログラム18公演)のうち、3公演以上まとめて購入すると、1回券の一般料金より約8%割引いた

します。座席・券種は自由にお選びいただけます。なお、WINTERシーズンは2月の1回券発売が延期されたことに伴い、12月・1月の2か月(6プログラム12公演)を対象として実施いたします。

※ WEBチケットN響のみでの販売となります

※ 1回券発売日からお申し込みいただけます

※ 割引の併用はできません

ユースチケット

25歳以下の方へのお得なチケットです。1回券と定期会員券(D席)でご利用いただけます。料金は各公演の情報をご覧ください。

※ N響ガイドのみの販売となります

※ 25歳以下の証明となるものをご提示いただけます

お問い合わせ

N響ガイド | TEL 03-5793-8161

営業時間: 11:00am～5:00pm

定休日: 土・日・祝日、定期公演池袋Aプログラムの翌月曜

●主催公演開催日は曜日に関わらず11:00am～開演時刻まで営業

●発売初日の土・日・祝日は11:00am～3:00pmの営業

●感染症予防対策のため電話受付のみの営業

WEBチケットN響(手数料無料) <https://ticket.nhks.or.jp>

Please follow us on     

2021-22定期公演プログラム

2021 12	池袋 A	第1945回 12/4 土 6:00pm 12/5 日 2:00pm 東京芸術劇場 コンサートホール	リーズ国際コンクール第2位の小林海都が登場 ブラームス／ハイドンの主題による変奏曲 作品56a バルトーク／ピアノ協奏曲 第3番 シェーンベルク／浄められた夜 作品4 指揮：ガエタノ・デスピノーサ ピアノ：小林海都 *当初予定の出演者・曲目から変更になりました。	一般 ユース S ¥8,900 S ¥5,500 A ¥7,400 A ¥4,500 B ¥5,800 B ¥3,500 C ¥4,700 C ¥2,500 D ¥3,700 D ¥1,500
		B	第1947回 12/15 水 7:00pm 12/16 木 7:00pm サントリーホール	山田和樹と見つめるドイツ音楽の「生」と「死」 マーラー／花の章 R. シュトラウス／4つの最後の歌 ベートーヴェン／交響曲 第3番 変ホ長調 作品55「英雄」 指揮：山田和樹 ソプラノ：佐々木典子 *当初予定の出演者・曲目から変更になりました。
	池袋 C	第1946回 12/10 金 7:30pm 12/11 土 2:00pm 東京芸術劇場 コンサートホール	飛躍を遂げたロシアの気鋭が10年ぶりにN響の指揮台に立つ チャイコフスキー／ロココ風の主題による変奏曲 作品33* ムソルグスキー(ラヴェル編)／組曲「展覧会の絵」 指揮：ワシリー・ベトレンコ チェロ：ダニエル・ミュラー・ショット*	一般 ユース S ¥7,400 S ¥4,500 A ¥6,500 A ¥4,000 B ¥5,200 B ¥3,000 C ¥4,200 C ¥2,000 D ¥3,200 D ¥1,400
2022 01	池袋 A	第1948回 1/15 土 6:00pm 1/16 日 2:00pm 東京芸術劇場 コンサートホール	原田慶太楼と反田恭平が捧げるポーランド、バリへのオマージュ ショパン(グズフ編)／軍隊ポロネーズ 長調 作品40-1(管弦楽版) ショパン(ストラヴィンスキー編)／夜想曲 変イ長調 作品32-2(管弦楽版) パデレフスキ／ポーランド幻想曲 作品19* ストラヴィンスキー／バレエ音楽「火の鳥」(1910年版) 指揮：原田慶太楼 ピアノ：反田恭平*	一般 ユース S ¥8,900 S ¥5,500 A ¥7,400 A ¥4,500 B ¥5,800 B ¥3,500 C ¥4,700 C ¥2,500 D ¥3,700 D ¥1,500
		B	第1950回 1/26 水 7:00pm 1/27 木 7:00pm サントリーホール	色彩の魔術師・ソビエフがセレクトするプロコフィエフの煌めく名品 プロコフィエフ／歌劇「戦争と平和」―「ワルツ」 プロコフィエフ／ピアノ協奏曲 第3番 長調 作品26 プロコフィエフ／交響曲 第5番 変ロ長調 作品100 指揮：トウガン・ソビエフ ピアノ：ハオチェン・チャン
	池袋 C	第1949回 1/21 金 7:30pm 1/22 土 2:00pm 東京芸術劇場 コンサートホール	濃密なロマンの香りを放つソビエフのブラームス ブルッフ／ヴァイオリン協奏曲 第1番 短調 作品26 ブラームス／交響曲 第3番 長調 作品90 指揮：トウガン・ソビエフ ヴァイオリン：ワディム・グルズマン	一般 ユース S ¥7,400 S ¥4,500 A ¥6,500 A ¥4,000 B ¥5,200 B ¥3,000 C ¥4,200 C ¥2,000 D ¥3,200 D ¥1,400
2022 02	池袋 A	第1951回 2/5 土 6:00pm 2/6 日 2:00pm 東京芸術劇場 コンサートホール	バーヴォ・ヤルヴィ、レヴィットと究めるドイツ・ロマン主義の精髄 ブラームス／ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品83 シューマン／交響曲 第2番 長調 作品61 指揮：バーヴォ・ヤルヴィ ピアノ：イゴール・レヴィット	一般 ユース S ¥9,800 S ¥5,800 A ¥8,400 A ¥4,800 B ¥6,700 B ¥3,800 C ¥5,400 C ¥2,800 D ¥4,400 D ¥1,800
		B	第1953回 2/16 水 7:00pm 2/17 木 7:00pm サントリーホール	バーヴォ・ヤルヴィ&ハーンのイギリス&アメリカ・プログラム プリテン／歌劇「ピーター・グライムズ」―4つの海の間奏曲 作品33a バーバー／ヴァイオリン協奏曲 作品14 エルガー／変奏曲「謎」作品36 指揮：バーヴォ・ヤルヴィ ヴァイオリン：ヒラリー・ハーン
	池袋 C	第1952回 2/11 金 祝 7:30pm 2/12 土 2:00pm 東京芸術劇場 コンサートホール	バーヴォ・ヤルヴィ&N響が大管弦楽で描くアルプスの壮大なバラマ R. シュトラウス／バレエ音楽「ヨセフの伝説」から交響的断章 R. シュトラウス／アルプス交響曲 作品64 指揮：バーヴォ・ヤルヴィ	一般 ユース S ¥7,400 S ¥4,500 A ¥6,500 A ¥4,000 B ¥5,200 B ¥3,000 C ¥4,200 C ¥2,000 D ¥3,200 D ¥1,400

池袋	東京芸術劇場 コンサートホール	B	サントリーホール	池袋	東京芸術劇場 コンサートホール
A	開場5:00pm 開演6:00pm 開場1:00pm 開演2:00pm	B	開場6:20pm 開演7:00pm 開場6:20pm 開演7:00pm	C	開場6:30pm 開演7:30pm 開場1:00pm 開演2:00pm
2022 04	池袋 A	第1954回 4/9(土) 6:00pm 4/10(日) 2:00pm 東京芸術劇場 コンサートホール	ドイツ最高峰の巨匠と紡ぐベートーヴェンの「舞踏交響曲」 ドヴォルザーク／序曲「謝肉祭」作品92 モーツァルト／フルート協奏曲 第1番ト長調 K. 313 ベートーヴェン／交響曲 第7番イ長調 作品92 指揮：クリストフ・エッセンバッハ フルード：スタティス・カラバノス	一般 ユース S ¥9,800 S ¥5,800 A ¥8,400 A ¥4,800 B ¥6,700 B ¥3,800 C ¥5,400 C ¥2,800 D ¥4,400 D ¥1,800	
	B		サントリーホールの改修工事に伴い、4月定期公演Bプログラムの開催を休止します。		
	池袋 C	第1955回 4/15(金) 7:30pm 4/16(土) 2:00pm 東京芸術劇場 コンサートホール	孤高の巨匠が迫るマーラーの本質——エッセンバッハの《交響曲第5番》 マーラー／交響曲 第5番 嬰ハ短調 指揮：クリストフ・エッセンバッハ	一般 ユース S ¥7,400 S ¥4,500 A ¥6,500 A ¥4,000 B ¥5,200 B ¥3,000 C ¥4,200 C ¥2,000 D ¥3,200 D ¥1,400	
2022 05	池袋 A	第1956回 5/14(土) 6:00pm 5/15(日) 2:00pm 東京芸術劇場 コンサートホール	こだわりの名匠と一から再構築するシューベルトの巨大な音楽遺産 シューマン／ヴァイオリン協奏曲 二短調 シューベルト／交響曲 第8番 ハ長調 D. 944「ザ・グレート」 指揮：マレク・ヤノフスキ ヴァイオリン：アリオーナ・パーエワ	一般 ユース S ¥8,900 S ¥5,500 A ¥7,400 A ¥4,500 B ¥5,800 B ¥3,500 C ¥4,700 C ¥2,500 D ¥3,700 D ¥1,500	
	B	第1958回 5/25(水) 7:00pm 5/26(木) 7:00pm サントリーホール	名キャプテンルイージと大海原を音楽で航海する メンデルスゾーン／序曲「静かな海と楽しい航海」作品27 ラヴェル／ピアノ協奏曲ト長調 リムスキー・コルサコフ／交響組曲「シェラザード」作品35 指揮：ファビオ・ルイージ ピアノ：小菅 優	一般 ユース S ¥9,800 S ¥5,800 A ¥8,400 A ¥4,800 B ¥6,700 B ¥3,800 C ¥5,400 C ¥2,800 D ¥4,400 D ¥1,800	
	池袋 C	第1957回 5/20(金) 7:30pm 5/21(土) 2:00pm 東京芸術劇場 コンサートホール	ルイージと丹念に磨き込むウィーン古典派の名品 モーツァルト／歌劇「ドン・ジョヴァンニ」序曲 モーツァルト／ピアノ協奏曲 第20番 二短調 K. 466 ベートーヴェン／交響曲 第8番 へ長調 作品93 指揮：ファビオ・ルイージ ピアノ：アレクサンドル・メルニコフ	一般 ユース S ¥7,400 S ¥4,500 A ¥6,500 A ¥4,000 B ¥5,200 B ¥3,000 C ¥4,200 C ¥2,000 D ¥3,200 D ¥1,400	
2022 06	池袋 A	第1959回 6/11(土) 6:00pm 6/12(日) 2:00pm 東京芸術劇場 コンサートホール	フランス音楽と文学の幸せなマリアージュ その耽美的な世界に身を委ねる デュカス／バレエ音楽「ペリ」(ファンファーレつき) ラヴェル／シェラザード* ドビュッシー／牧神の午後への前奏曲 フロラン・シュミット／バレエ組曲「サロメの悲劇」作品50 指揮：ステファヌ・ドゥネーヴ メゾ・ソプラノ：ステファニー・ドゥストラック*	一般 ユース S ¥8,900 S ¥5,500 A ¥7,400 A ¥4,500 B ¥5,800 B ¥3,500 C ¥4,700 C ¥2,500 D ¥3,700 D ¥1,500	
	B	第1961回 6/22(水) 7:00pm 6/23(木) 7:00pm サントリーホール	しなやかに、颯爽と！鈴木優人のモーツァルト《ジュピター》 バッハ(鈴木優人編)／パッサカリアとフーガ ハ短調 BWV582 フリテン／ヴァイオリン協奏曲 作品15 モーツァルト／交響曲 第41番 ハ長調 K. 551「ジュピター」 指揮：鈴木優人 ヴァイオリン：郷古 廉	一般 ユース S ¥8,900 S ¥5,500 A ¥7,400 A ¥4,500 B ¥5,800 B ¥3,500 C ¥4,700 C ¥2,500 D ¥3,700 D ¥1,500	
	池袋 C	第1960回 6/17(金) 7:30pm 6/18(土) 2:00pm 東京芸術劇場 コンサートホール	仏米2人の作曲家が伝える1920～30年代 巴りの息吹 ブーランク／バレエ組曲「牝鹿」 ブーランク／オルガン協奏曲ト短調 ガーシュウィン／バリのアメリカ人 指揮：ステファヌ・ドゥネーヴ オルガン：オリヴィエ・ラトリ	一般 ユース S ¥7,400 S ¥4,500 A ¥6,500 A ¥4,000 B ¥5,200 B ¥3,000 C ¥4,200 C ¥2,000 D ¥3,200 D ¥1,400	(料金はすべて税込)

※今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

特別公演

12/22(水) 7:00pm

12/25(土) 4:00pm

12/26(日) 2:00pm

ベートーヴェン「第9」演奏会

Bunkamura オーチャードホール(12/22)、東京芸術劇場 コンサートホール(12/25、26)

指揮:尾高忠明(12/22)、ファビオ・ルイーゼ(12/25、26) ソプラノ:ヘンリエット・ボンデ・ハンセン
メゾ・ソプラノ:加納悦子 テノール:ステュアート・スケルトン バス:ミカ・カレス 合唱:東京オペラシンガーズ
ベートーヴェン/交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱つき」

料金(税込):一般 | S席15,000円 A席12,000円 B席9,000円 C席6,000円
ユース(25歳以下) | S席7,500円 A席6,000円 B席4,500円 C席3,000円

主催:NHK/NHK交響楽団 協賛:みずほ証券株式会社/はごろもフーズ株式会社/花王株式会社/株式会社明電舎
※当初発表のスケジュール・出演者から変更となりました

12/27(月) 7:00pm | かんぼ生命 presents N響第九 Special Concert

サントリーホール

指揮:ファビオ・ルイーゼ ソリスト・合唱は上段のベートーヴェン「第9」演奏会と同じ オルガン:勝山雅世*
ブクステフーデ/コラール前奏曲「輝く暁の星の麗しさよ」*
バッハ/トッカータとフーガ 二短調 BWV565*
ベートーヴェン/交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱つき」

料金(税込):一般 | S席17,500円 A席14,500円 B席11,500円 C席8,000円
ユース(25歳以下) | S席8,750円 A席7,250円 B席5,750円 C席4,000円

主催:NHK交響楽団 特別協賛:株式会社かんぼ生命保険

1/31(日) 7:00pm | N響「新春」

東京オペラシティ コンサートホール

指揮:高関 健 ヴァイオリン:白井 圭
リムスキー・コルサコフ/スペイン奇想曲 作品34
メンデルスゾーン/ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64
ムソルグスキー(ラヴェル編)/組曲「展覧会の絵」

料金(税込):一般 | S席7,200円 A席5,200円 B席3,000円
ユース(25歳以下) | S席5,900円 A席4,300円 B席2,500円

主催:NHK/NHK交響楽団 協賛:岩谷産業株式会社

上記の公演はすべてチケット発売中 | お問い合わせ:N響ガイド TEL (03) 5793-8161

※定期会員は一般料金の10%割引で購入いただけます
※ユースチケットはN響ガイドにお電話でお申し込みください。感染症予防対策のため、事前に年齢確認のための登録手続きが必要になります(N響ホームページをご覧ください)
※定期会員割引:先行発売はWEBチケットN響およびN響ガイドのみの取り扱いです
※N響ガイドでのお申し込みは公演日の1営業日前までとなります

各地の公演

1/10(月)祝 2:00pm | 2022サンシティ・ニューイヤーコンサート NHK交響楽団

サンシティ越谷市民ホール

指揮:ケリー・リン・ウィルソン ソプラノ:森 麻季
ヨハン・シュトラウスII世 / 皇帝円舞曲 作品437
ヨハン・シュトラウスII世 / ボルカ「雷鳴と電光」 作品324
ヨハン・シュトラウスII世 / トリッチ・トラッチ・ボルカ 作品214
ヨハン・シュトラウスII世 / ワルツ「美しく青きドナウ」 作品314
マーラー / 交響曲 第4番 ト長調

主催:(公財)越谷市施設管理公社 お問い合わせ:越谷コミュニティセンター TEL (048) 985-1112

2/21(月) 7:00pm | 国際音楽祭 NIPPON2022

尾高忠明 指揮 / NHK交響楽団 / 諏訪内晶子(ヴァイオリン)

東京オペラシティ コンサートホール

指揮:尾高忠明 ヴァイオリン:諏訪内晶子
シベリウス / 「ベレアスとメリザンド」組曲 作品46
デュティユー / ヴァイオリンと管弦楽のための夜想曲「同じ和音の上で」
ブラームス / ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品77

主催:ジャパン・アーツ お問い合わせ:ジャパン・アーツびあコールセンター TEL (0570) 00-1212

2/24(木) 7:00pm | 2022都民芸術フェスティバル参加公演 オーケストラ・シリーズ No. 53

東京芸術劇場 コンサートホール

指揮:高関 健 ヴァイオリン:南 紫音
チャイコフスキー / ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品35
ブラームス / 交響曲 第1番 ハ短調 作品68

主催・お問い合わせ:(公社)日本演奏連盟 TEL (03) 3539-5131

2/26(土) 3:00pm | NHK交響楽団 長岡特別演奏会

長岡市立劇場

出演者・曲目は2月24日と同じ

主催:(公財)長岡市芸術文化振興財団 お問い合わせ:(公財)長岡市芸術文化振興財団 事業課(長岡リリックホール内) TEL (0258) 29-7715

NHK交響楽団×野平一郎プロジェクト フルオーケストラによる完結編

3/6(日) 5:00pm シリーズⅢ ロマン派から印象派へ+

野平一郎 静岡トリロジーⅢ「瞬間と永遠の歌」

グランシップ 中ホール・大地

指揮：野平一郎 合唱：静岡児童合唱団・青葉会スベリオル*

ビゼー／「アルルの女」組曲 第2番

ドビュッシー／牧神の午後への前奏曲

ラヴェル／バレエ音楽「ラ・ヴァルス」

野平一郎／静岡トリロジーⅢ(公益財団法人静岡県文化財団委嘱作品・新作初演)*

主催：(公財)静岡県文化財団、静岡県 お問い合わせ：グランシップチケットセンター TEL(054) 289-9000

3/13(日) 5:00pm | N響姫路公演

アクリエひめじ(姫路市文化コンベンションセンター)大ホール

指揮：原田慶太楼 ピアノ：小曾根 真*

バーンスタイン／「キャンディード」序曲

バーンスタイン(メーン編)／「ウエスト・サイド・ストーリー」セクション

ガーシュウィン／ラブソング・イン・ブルー*

ロジャース&ハマースタインⅡ(ベネット編)／サウンド・オブ・ミュージック

ガーシュウィン(ベネット編)／「ポーギーとベス」交響的絵画

主催：(公財)姫路市文化国際交流財団 お問い合わせ：(公財)姫路市文化国際交流財団 制作チーム TEL (079) 298-8015

3/14(月) 7:00pm | 開館25周年記念 NHK交響楽団

シンフォニア岩国 コンサートホール

出演者・曲目は3月13日と同じ

主催：シンフォニア岩国指定管理者サントリーバプリシティサービスグループ お問い合わせ：シンフォニア岩国 TEL (0827) 29-1600

オーチャード定期

Bunkamura オーチャードホール

1/8(土) 3:30pm

出演者・曲目は1月10日と同じ

3/12(土) 3:30pm

出演者・曲目は3月13日と同じ

主催・お問合せ：Bunkamura TEL (03) 3477-3244

NHK交響楽団

首席指揮者：パーヴォ・ヤルヴィ

名誉音楽監督：シャルル・デュワ

桂冠名誉指揮者：ヘルベルト・ブロムシュテット

桂冠指揮者：ウラディーミール・アシケナージ

正指揮者：外山雄三、尾高忠明

第1コンサートマスター：篠崎史紀

コンサートマスター：伊藤亮太郎

ゲスト・コンサートマスター：白井圭

第1ヴァイオリン

青木 調
字根京子
大鹿由希
倉富亮太
後藤 康
小林玉紀
高井敏弘
猶井悠樹
中村弓子
降旗貴雄
○松田拓之
宮川奈々
○森田昌弘
○山岸 努
□横島礼理
○横溝耕一

第2ヴァイオリン

○大林修子
○大宮臨太郎
木全利行
齋藤麻衣子
嶋田慶子
○白井 篤
○田中晶子
坪井きらら
丹羽洋輔
平野一彦
船木陽子
俣野賢仁
○三又治彦
矢津将也
山田慶一

横山俊朗
米田有花

村尾隆人

ヴィオラ

◎佐々木 亮
◎村上淳一郎
☆中村翔太郎
小野 聡
小島茂隆
□坂口弦太郎
谷口真弓
飛澤浩人
○中村洋乃理
松井直之
三国レイチェル由依
御法川雄矢
○村松 龍
山田雄司

チェロ

◎辻本 玲
◎藤森亮一
市 寛也
小島幸法
三戸正秀
中 実穂
○西山健一
○藤村俊介
宮坂拓志
村井 将
○山内俊輔
渡邊光子

コントラバス

◎吉田 秀
☆市川雅典
☆西山真二
稻川永示
○岡本 潤
今野 京
佐川裕昭
本間達朗
矢内陽子

フルート

◎甲斐雅之
◎神田寛明
梶川真步
菅原 潤
中村淳二

オーボエ

◎青山聖樹
◎吉村結実
池田昭子
坪池泉美
和久井 仁

クラリネット

◎伊藤 圭
◎松本健司
山根孝司

ファゴット

◎宇賀神広宣
◎水谷上総
佐藤由起
菅原恵子
森田 格

ホルン

◎今井仁志
◎福川伸陽
石山直城
勝俣 泰
木川博史
野見山和子

トランペット

◎菊本和昭
◎長谷川智之
安藤友樹
山本英司

トロンボーン

◎古賀 光
◎新田幹男
池上 亘
黒金寛行
吉川武典

テューバ

池田幸広

ティンパニ

◎植松 透
◎久保昌一

打楽器

石川達也
黒田英実
竹島悟史

ハープ

早川りさこ

ステージ・マネージャー

徳永匡哉
黒川大亮

ライブラリアン

沖 あかね
木村英代

(五十音順、◎首席、☆首席代行、○次席、□次席代行、#インスペクター)

特別支援・特別協力・賛助会員

Corporate Membership

特別支援

岩谷産業株式会社	代表取締役社長 間島 寛
三菱地所株式会社	執行役社長 吉田淳一
株式会社 みずほ銀行	頭取 藤原弘治
公益財団法人 渋谷育英会	理事長 小丸成洋

特別協力

BMW ジャパン	代表取締役社長 Christian Wiedmann
全日本空輸株式会社	代表取締役社長 平子裕志
ヤマハ株式会社	代表執行役社長 中田卓也
株式会社 パレスホテル	代表取締役社長 吉原大介

賛助会員

・ 常陸宮	・ イーソリューションズ(株) 代表取締役社長 佐々木経世	・ (株)NHKアート 代表取締役社長 小野木昌史
・ (株)アートレイ 代表取締役 小森活美	・ EY新日本有限責任監査法人 理事長 片倉正美	・ (一財)NHK インターナショナル 理事長 黄木紀之
・ (株)アイシン 取締役社長 吉田守孝	・ 池上通信機(株) 代表取締役社長 清森洋祐	・ NHK 営業サービス(株) 代表取締役社長 山田哲生
・ 葵設備工事(株) 代表取締役社長 安藤正明	・ 伊東国際特許事務所 会長 伊東忠彦	・ (株)NHK エデュケーションル 代表取締役社長 田波宏視
・ アサヒグループホールディングス(株) 代表取締役社長兼CEO 勝木敦志	・ 井村屋グループ(株) 代表取締役会長 浅田剛夫	・ (一財)NHK エンジニアリングシステム 理事長 黄木紀之
・ (株)朝日工業社 代表取締役社長 高須康有	・ (株)インターネットイニシアティブ 代表取締役会長 鈴木幸一	・ (株)NHK エンタープライズ 代表取締役社長 松本浩司
・ 朝日信用金庫 理事長 伊藤康博	・ (株)ウイングツー 代表取締役 福田健二	・ (学)NHK 学園 理事長 篠原朋子
・ 有限責任 あずさ監査法人 理事長 高波博之	・ SMBC日興証券(株) 代表取締役会長 川寄靖之	・ (株)NHK グローバルメディアサービス 代表取締役社長 根本拓也
・ アットホーム(株) 代表取締役社長 鶴森康史	・ CSCS(株) 代表取締役執行役員 社長 最高執行責任者 谷原 徹	・ (一財)NHK サービスセンター 理事長 黄木紀之

- ・(株)NHK出版
代表取締役社長 | 土井成紀
- ・(株)NHKテクノロジーズ
代表取締役社長 | 野口周一
- ・(株)NHKビジネススクリエイト
代表取締役社長 | 石原勉
- ・(株)NHKプロモーション
代表取締役社長 | 大茂慶昌
- ・(株)NHK文化センター
代表取締役社長 | 田中剛志
- ・(一財)NHK放送研修センター
理事長 | 黄木紀之
- ・(株)NTTドコモ
代表取締役社長 | 井伊基之
- ・(株)NTTファンティアーズ
代表取締役社長 | 松原和彦
- ・ENEOSホールディングス(株)
代表取締役社長 社長執行役員
大田勝幸
- ・荏原冷熱システム(株)
代表取締役 | 庄野道
- ・大崎電気工業(株)
代表取締役会長 | 渡辺佳英
- ・大塚ホールディングス(株)
代表取締役社長兼CEO | 樋口達夫
- ・(株)大林組
代表取締役社長 | 蓮輪賢治
- ・オールニッポンヘリコプター(株)
代表取締役社長 | 柳川淳
- ・岡崎耕治
- ・岡山英世
- ・沖電気工業(株)
代表取締役社長執行役員 | 鎌上信也
- ・花王(株)
代表取締役 社長執行役員
長谷部佳宏
- ・カンオ計算機(株)
代表取締役社長 | 櫻尾和宏
- ・鹿島建設(株)
代表取締役社長 | 天野裕正
- ・(株)加藤電気工業所
代表取締役 | 加藤浩章
- ・角川歴彦
- ・(株)金子製作所
代表取締役 | 金子晴房
- ・カルチュア・エンタテインメント(株)
代表取締役社長 | 中西一雄
- ・(株)関電工
取締役社長 | 仲摩俊男
- ・(株)かんぼ生命保険
取締役兼代表執行役社長 | 千田哲也
- ・キッコーマン(株)
取締役名誉会長 | 茂木友三郎
- ・(株)CURIOUS PRODUCTIONS
代表取締役 | 黒川幸太郎
- ・(株)教育芸術社
代表取締役 | 市川かおり
- ・(株)共栄サービス
代表取締役 | 三宅国紀
- ・(株)共同通信会館
代表取締役専務 | 牧野和宏
- ・(一社)共同通信社
社長 | 水谷 亨
- ・キリンホールディングス(株)
代表取締役社長 | 磯崎功典
- ・キングレコード(株)
代表取締役 | 村上 潔
- ・(学)国立音楽大学
理事長 | 山田晴彦
- ・京王電鉄(株)
代表取締役社長 社長執行役員
紅村 康
- ・京成電鉄(株)
代表取締役社長 | 小林敏也
- ・KDDI(株)
代表取締役社長 | 高橋 誠
- ・京浜急行電鉄(株)
取締役社長 | 原田一之
- ・(医)社団 恒仁会
理事長 | 伊藤恒道
- ・(株)コーポレートディレクション
代表取締役 | 石井光太郎
- ・佐川印刷(株)
代表取締役会長 | 木下宗昭
- ・佐藤弘康
- ・サフラン電機(株)
代表取締役 | 藤崎貴之
- ・(株)サンセイ
代表取締役社長 | 富田佳佑
- ・サントリーホールディングス(株)
代表取締役社長 | 新浪剛史
- ・(株)ジェイ・ウィル・コーポレーション
代表取締役 | 佐藤雅典
- ・JCOM(株)
代表取締役社長 | 石川雄三
- ・(株)ジャパン・アーツ
代表取締役社長 | 二瓶純一
- ・(株)集英社
代表取締役社長 | 廣野真一
- ・(株)小学館
代表取締役社長 | 相賀昌宏
- ・庄司勇次朗・恵子
- ・ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
- ・(株)白川プロ
代表取締役社長 | 白川亜弥
- ・新赤坂クリニック
院長 | 松木隆央
- ・信越化学工業(株)
代表取締役会長 | 金川千尋
- ・新菱冷熱工業(株)
代表取締役社長 | 加賀美 猛
- ・(株)スカパーJSATホールディングス
代表取締役社長 | 米倉英一
- ・(株)菅原
代表取締役社長 | 古江訓雄
- ・スズキ(株)
代表取締役社長 | 鈴木俊宏
- ・住友商事(株)
代表取締役社長執行役員 CEO
兵頭誠之
- ・住友電気工業(株)
社長 | 井上 治
- ・セイコーホールディングス(株)
代表取締役会長兼グループCEO
兼グループ CCO
服部真二
- ・聖徳大学
学長 | 川並弘純
- ・西武鉄道(株)
取締役社長 | 喜多村樹美男

- ・ 関彰商事(株)
代表取締役会長 | 関 正夫
- ・ (株)セノン
代表取締役 | 小谷野宗靖
- ・ (株)ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役社長CEO | 村松俊亮
- ・ 損害保険ジャパン(株)
代表取締役社長 | 西澤敬二
- ・ 第一三共(株)
代表取締役社長 | 眞鍋 淳
- ・ ダイキン工業(株)
取締役社長 | 十河政則
- ・ 大成建設(株)
代表取締役社長 | 相川善郎
- ・ 高砂熱学工業(株)
代表取締役社長 | 小島和人
- ・ (株)ダク
代表取締役 | 福田浩二
- ・ (株)竹中工務店
取締役執行役員社長 | 佐々木正人
- ・ 田中貴金属工業(株)
代表取締役社長執行役員
田中浩一朗
- ・ 田原 昇
- ・ チャンネル銀河(株)
代表取締役社長 | 住田和嘉子
- ・ 中央日本土地建物(株)
代表取締役社長 | 平松哲郎
- ・ 中外製薬(株)
代表取締役社長 | 奥田 修
- ・ (株)電通
代表取締役 社長執行役員 | 五十嵐 博
- ・ (株)テンポプリモ
代表取締役 | 中村聡武
- ・ (株)TOKAI ホールディングス
代表取締役社長 | 鶴田勝彦
- ・ 東海旅客鉄道(株)
代表取締役社長 | 金子 慎
- ・ 東急(株)
取締役社長 | 高橋和夫
- ・ (株)東急文化村
代表取締役社長 | 中野哲夫
- ・ 東京海上日動火災保険(株)
取締役社長 | 広瀬伸一
- ・ (株)東京交通会館
取締役社長 | 興野敦郎
- ・ 東信地所(株)
代表取締役 | 堀川利通
- ・ 東武鉄道(株)
取締役社長 | 根津嘉澄
- ・ 桐朋学園大学
学長 | 梅津時比古
- ・ 東邦ホールディングス(株)
取締役最高顧問 | 濱田矩男
- ・ (株)東北新社
代表取締役社長 | 中島信也
- ・ (一助)凸版印刷三幸会
代表理事 | 金子眞吾
- ・ トヨタ自動車(株)
代表取締役社長 | 豊田章男
- ・ 内外施設工業グループホールディングス(株)
取締役会長 | 林 正道
- ・ 中銀グループ
代表 | 渡辺藏人
- ・ 中山武之
- ・ 日鉄興和不動産(株)
代表取締役社長 | 今泉泰彦
- ・ 日東紡績(株)
取締役 代表取締役社長 | 辻 裕一
- ・ 日本ガイシ(株)
取締役社長 | 小林 茂
- ・ (株)日本国際放送
代表取締役社長 | 高尾 潤
- ・ 日本運送(株)
代表取締役社長 | 齋藤 充
- ・ 日本電気(株)
代表取締役執行役員社長 | 森田隆之
- ・ (一助)日本放送協会共済会
理事長 | 谷弘聡史
- ・ 日本郵政(株)
取締役兼代表執行役員社長 | 増田寛也
- ・ (株)ニフコ
代表取締役社長 | 柴尾雅春
- ・ (株)日本デジコム
代表取締役 | 竹井裕二
- ・ 野村ホールディングス(株)
代表執行役員社長 | 奥田健太郎
- ・ パナソニック(株)
代表取締役 社長執行役員 CEO
楠見雄規
- ・ (有)パルフェ
代表取締役 | 伊藤良彦
- ・ 東日本電信電話(株)
代表取締役社長 | 井上福造
- ・ (株)日立製作所
執行役員社長 | 小島啓二
- ・ (株)フォトロン
代表取締役 | 瀧水 隆
- ・ 福田三千男
- ・ 富士通(株)
代表取締役社長 | 時田隆仁
- ・ 富士通フロンテック(株)
代表取締役社長 | 川上博亨
- ・ 古川建築音響研究所
所長 | 古川宣一
- ・ (株)朋栄ホールディングス
代表取締役 | 清原慶三
- ・ (株)放送衛星システム
代表取締役社長 | 井上樹彦
- ・ (公)放送文化基金
理事長 | 濱田純一
- ・ ホクト(株)
代表取締役 | 水野雅義
- ・ 前田工織(株)
代表取締役社長兼COO | 前田尚宏
- ・ (株)松尾楽器商会
代表取締役 | 松尾治樹
- ・ 丸紅(株)
代表取締役社長 | 柿木真澄
- ・ 溝江建設(株)
代表取締役社長 | 溝江 弘
- ・ 三井住友海上火災保険(株)
代表取締役 | 船曳真一郎
- ・ (株)三井住友銀行
頭取 | 高島 誠
- ・ 三菱商事(株)
代表取締役社長 | 垣内威彦
- ・ 三菱電機(株)
執行役員社長 | 漆間 啓
- ・ (株)緑山スタジオ・シティ
代表取締役社長 | 難波一弘

- ・三橋産業(株)
代表取締役会長 | 三橋洋之
- ・三原穂積
- ・(学)武蔵野音楽学園
理事長 | 福井直敬
- ・(株)明治
代表取締役社長 | 松田克也
- ・(株)明電舎
取締役社長 | 三井田 健
- ・(株)目の眼
代表 | 櫻井 恵
- ・森ビル(株)
代表取締役社長 | 辻 慎吾
- ・森平舞台機構(株)
代表取締役 | 森 健輔

- ・矢下茂雄
- ・山田産業(株)
代表取締役 | 山田裕幸
- ・(株)山野楽器
代表取締役社長 | 山野政彦
- ・(株)ヤマハミュージックジャパン
代表取締役社長 | 押木正人
- ・ユニオンツール(株)
代表取締役会長 | 片山貴雄
- ・米澤文彦
- ・(株)読売広告社
代表取締役社長 | 藤沼大輔
- ・(株)読売旅行
代表取締役社長 | 坂元 隆
- ・料亭 三長
代表 | 高橋千善

- ・(株)リンレイ
代表取締役社長 | 鈴木信也
- ・(有)ルナ・エンタープライズ
代表取締役 | 戸張誠二
- ・ローム(株)
代表取締役社長 社長執行役員
松本 功
- ・YKアクロス(株)
代表取締役社長 | 中野健次

(五十音順、敬称略)

NHK交響楽団への ご寄付について

NHK交響楽団は多くの方々の貴重なご寄付に支えられて、積極的な演奏活動を展開しております。定期公演の充実をはじめ、著名な指揮者・演奏家の招聘、意欲あふれる特別演奏会の実現、海外公演の実施など、今後も音楽文化の向上に努めてまいりますので、みなさまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

「賛助会員」入会のご案内

NHK交響楽団は賛助会員制度を設け、上記の方々にご支援をいただいております。当団の経営基盤を支える大きな柱となっております。会員制度の内容は次の通りです。

■当団は「公益財団法人」として認定されています。

当団は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

1. 会費：一口50万円(年間)
2. 期間：入会は随時、年会費をお支払いいただいたときから1年間
3. 入会の特典：『フィルハーモニー』、『年間パンフレット』、『第9』演奏会プログラム等にご芳名を記載させていただきます。

N響主催公演のご鑑賞の機会を設けます。

遺贈のご案内

資産の遺贈(遺言による寄付)を希望される方々のご便宜をお図りするために、NHK交響楽団では信託銀行が提案する「遺言信託制度」をご紹介します(三井住友信託銀行と提携)。相続財産目録の作成から遺産分割手続の実施まで、煩雑な相続手続を信託銀行が有償で代行いたします。まずはN響寄付担当係へご相談ください。

お問い合わせ

公益財団法人 NHK交響楽団「寄付担当係」

TEL: 03-5793-8120

曲目解説執筆者

白井史人(しらい ふみと)

名古屋外国語大学准教授。おもな研究テーマは、ドイツ語圏の音楽・文化、映画の音楽、20世紀の音楽。共著書に『世界は映画でできている』、論文に「シェーンベルクの「オペラ」と「ドラマ」——《今日から明日へ》と『聖書の道』からみるワーグナーへの両義的態度」など。

中田朱美(なかた あけみ)

国立音楽大学准教授。専門はロシア・ソ連音楽。共訳書にフランシス・マース著『ロシア音楽史——《カマーリンスカヤ》から《バービー・ヤール》まで』、共著書に『ロシア音楽事典』のほか、論文に「ソ連時代におけるポリショイ劇場のオペラ上演状況」など。

広瀬大介(ひろせ だいすけ)

音楽学者、音楽評論家。1973年生まれ。青山学院大学教授。日本リヒャルト・シュトラウス協会常務理事・事務局長。著書に『リヒャルト・シュトラウス「自画像」としてのオペラ』『帝国のオペラ』など。各種音楽媒体での評論活動のほか、NHKラジオへの出演、演奏会曲目解説・CDライナーノーツ、オペラ公演・映像の字幕・対訳等への寄稿多数。

(五十音順、敬称略)

Information

『フィルハーモニー』『フィルハーモニー』11月号の編集終了後、以下の通り掲載内容に変更が生じましたので、お知らせいたします。

**2021年11月号
掲載内容変更の
お知らせ**

- ◎11月定期公演 池袋Aプログラム (東京芸術劇場 | 11/13[土]、14[日]) 指揮者変更
当初予定のファビオル・イージ氏から沼尻竜典氏に変更となりました。

また以下の内容については本誌『フィルハーモニー』12月号に最新の情報を掲載しています。各該当ページをご参照ください。

- ◎12月定期公演の出演者・曲目
第1945回 定期公演 池袋Aプログラム 本号6頁
第1947回 定期公演 Bプログラム 本号11頁
- ◎WINTERシーズン(12~2月)定期公演の1回券／WEBセレクト3+の発売スケジュール
本号29頁
- ◎「第9」演奏会の日程・出演者などについて
本号32頁

みなさまの声をお聞かせください！

インターネットアンケートにご協力ください

ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。
ご協力をお願いいたします。

アクセス方法

STEP

1



スマートフォンで右の
QRコードを読み取る。
またはURLを入力
[https://www.nhkso.or.jp/
enquete.html](https://www.nhkso.or.jp/enquete.html)



STEP

2



開いたリンク先からアンケートサイトに入る

STEP

3



アンケートに答えて(約5分)、
「送信」を押して完了！

ほかにもご意見・ご感想がありましたらお寄せください。

会場入口の主催者受付に設置の「ご意見回収箱」に投函いただくか、

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49 NHK交響楽団 フィルハーモニー編集までお送りください。

ふりがな		年齢	歳
お名前		TEL	

個人情報の取り扱いについて

ご提供いただいた個人情報は、必要な場合、ご記入者様への連絡のみに使用し、他の目的に使用いたしません。

NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

Chief Conductor: Paavo Järvi

Music Director Emeritus: Charles Dutoit

Honorary Conductor Laureate: Herbert Blomstedt

Conductor Laureate: Vladimir Ashkenazy

Permanent Conductors: Yuzo Toyama, Tadaaki Otaka

First Concertmaster: Fuminori Maro Shinozaki

Concertmaster: Ryotaro Ito

Guest Concertmaster: Kei Shirai

1st Violins

- Shirabe Aoki
- Kyoko Une
- Yuki Oshika
- Ryota Kuratomi
- Ko Goto
- Tamaki Kobayashi
- Toshihiro Takai
- Yuki Naoi
- Yumiko Nakamura
- Takao Furihata
- Hiroyuki Matsuda
- Nana Miyagawa
- Masahiro Morita
- Tutomu Yamagishi
- Masamichi Yokoshima
- Koichi Yokomizo

2nd Violins

- ◎ Nobuko Obayashi
- ◎ Rintaro Omiya
- Toshiyuki Kimata
- Maiko Saito
- Keiko Shimada
- Atsushi Shirai
- Akiko Tanaka
- Kirara Tsuboi
- Yosuke Niwa
- Kazuhiko Hirano
- Yoko Funaki
- Kenji Matano
- Haruhiko Mimata
- Masaya Yazu
- Yoshikazu Yamada
- Toshiro Yokoyama
- Yuka Yoneda

- Ryuto Muraō

Violas

- ◎ Ryo Sasaki
- ◎ Junichiro Murakami
- ☆ Shotaro Nakamura
- Satoshi Ono
- Shigetaka Obata
- Gentaro Sakaguchi
- Mayumi Taniguchi
- Hiroto Tobisawa
- Hironori Nakamura
- Naoyuki Matsui
- Rachel Yui Mikuni
- # Yuya Minorikawa
- Ryo Muramatsu
- Yuji Yamada

Cellos

- ◎ Rei Tsujimoto
- ◎ Ryoichi Fujimori
- Hiroya Ichi
- Yukinori Kobatake
- Masahide Sannohe
- Miho Naka
- Ken'ichi Nishiyama
- Shunsuke Fujimura
- Hiroshi Miyasaka
- Yuki Murai
- Shunsuke Yamanouchi
- Masako Watanabe

Contrabasses

- ◎ Shu Yoshida
- ☆ Masanori Ichikawa
- ☆ Shinji Nishiyama
- Eiji Inagawa
- Jun Okamoto
- Takashi Konno
- Hiroaki Sagawa
- Tatsuro Honma
- Yoko Yanai

Flutes

- ◎ Masayuki Kai
- ◎ Hiroaki Kanda
- Maho Kajikawa
- Jun Sugawara
- Junji Nakamura

Oboes

- ◎ Satoki Aoyama
- ◎ Yumi Yoshimura
- Shoko Ikeda
- Izumi Tsuboike
- Hitoshi Wakui

Clarinets

- ◎ Kei Ito
- ◎ Kenji Matsumoto
- # Takashi Yamane

Bassoons

- ◎ Hironori Ugajin
- ◎ Kazusa Mizutani
- Yuki Sato
- Keiko Sugawara
- Itaru Morita

Horns

- ◎ Hitoshi Imai
- ◎ Nobuaki Fukukawa
- Naoki Ishiyama
- Yasushi Katsumata
- Hiroshi Kigawa
- Kazuko Nomiya

Trumpets

- ◎ Kazuaki Kikumoto
- ◎ Tomoyuki Hasegawa

Tomoki Ando
Eiji Yamamoto

Trombones

- ◎ Hikaru Koga
- ◎ Mikio Nitta
- Ko Ikegami
- Hiroyuki Kurogane
- Takenori Yoshikawa

Tuba

Yukihiro Ikeda

Timpani

- ◎ Toru Uematsu
- ◎ Shoichi Kubo

Percussion

Tatsuya Ishikawa
Hidemi Kuroda
Satoshi Takeshima

Harp

Risako Hayakawa

Stage Manager

Masaya Tokunaga
Daisuke Kurokawa

Librarian

Akane Oki
Hideyo Kimura

(◎ Principal, ☆ Acting Principal, ○ Vice Principal, □ Acting Vice Principal, # Inspector)

PROGRAM

Ikebukuro

A

Concert No.1945

Tokyo Metropolitan Theatre

December

4 (Sat) 6:00pm

5 (Sun) 2:00pm

conductor

Gaetano d'Espinosa

piano

Kaito Kobayashi

concertmaster

Kei Shirai

Johannes Brahms
**“Variationen über ein
 Thema von Haydn,” Op. 56a [19’]**

Béla Bartók
Piano Concerto No. 3 [23’]

I Allegretto
 II Adagio religioso
 III Allegro vivace

— intermission (20 minutes) —

Arnold Schönberg
“Verklärte Nacht,” Op. 4 [30’]

★The performer and program have changed from the original plan.

Under the auspice of: Toshima City

Artist Profiles

Gaetano d'Espinosa, conductor



© Carmen Krauss

Sicilian-born Gaetano d'Espinosa began his musical career as a violinist, serving as the concertmaster of the Staatskapelle Dresden from 2003 to 2008, then he started to focus on conducting encouraged by Fabio Luisi. From 2012 to 2017 he served as Principal Guest Conductor of l'Orchestra Sinfonica di Milano Giuseppe Verdi while being invited by many Italian orchestras. He has also won artistic acclaim as an operatic conductor. In May 2022, he will conduct the Staatskapelle Dresden in a program including the world premiere performance of Jörg Herchet's new composition. This is his 4th collaboration with the NHK Symphony Orchestra, the first being in April 2012.

Ikebukuro

A

4 & 5, DEC. 2021

Kaito Kobayashi, piano



© Takuro Yoshida

Born in Yokohama in 1995, Kaito Kobayashi has been working with Japanese and European orchestras such as l'Orchestre National de Belgique and the Royal Liverpool Philharmonic Orchestra. Among awards he has earned were the 2nd Prize (the highest rank for a Japanese since 1975) and the Yaltah Menuhin Award for chamber music at the Leeds International Piano Competition in September 2021. This is his first appearance with the NHK Symphony Orchestra playing Bartók Piano Concerto No. 3, a work considered to be difficult which he performed at the final stage of the competition.

Program Notes | Kumiko Nishi

Johannes Brahms (1833–1897)

“Variationen über ein Thema von Haydn,” Op. 56a

In his essay “Brahms the Progressive,” Schönberg praised his senior’s “developing variation,” an idea of creating a big form from a motif by using the variation technique. Op. 56a (1873) showcases Brahms’ mastery of the traditional variation form. The theme, found in J. Haydn’s wind ensemble work, is followed by its eight variations and a concluding “passacaglia,” a sort of variation typical of the baroque era.

Béla Bartók (1881–1945)

Piano Concerto No. 3

Hungarian composer Bartók is also considered a father of the ethnomusicology, as he collected folk songs and dances to analyse them. His innovative compositions inspired by folklore influenced the 20th century music scene. A gift for his wife who was a great pianist, the third piano concerto is Bartók’s swan song, almost completed before his death in exile in New York. The final Rondo movement has the lively recurring theme which evokes a festive folk dance.

Arnold Schönberg (1874–1951)

“Verklärte Nacht,” Op. 4

Written in 1899, *Verklärte Nacht* (*Transfigured Night*) is an important work from Schönberg’s early period, when the Viennese composer still had a voluptuous, highly expressive style of late Romanticism. Divided in five sections performed continuously, the music, exceedingly chromatic, describes Richard Dehmel’s poem. It is about a couple walking on a winter moonlit night when the woman confesses to the man that she is expecting a child, but not by him. The man asks her to give birth to it for him, as theirs.

Kumiko Nishi

English-French-Japanese translator based in the USA. Holds a MA in musicology from the University of Lyon II, France and a BA from the Tokyo University of the Arts (Geidai).

PROGRAM

B

Concert No.1947

Suntory Hall

December

15(Wed) 7:00pm

16(Thu) 7:00pm

conductor Kazuki Yamada

soprano Noriko Sasaki

concertmaster Fuminori Maro Shinozaki

Gustav Mahler
“Blumine” movement [7’]R. Strauss
4 Letzte Lieder [24’]

- I Frühling
- II September
- III Beim Schlafengehen
- IV Im Abendrot

— intermission (20 minutes) —

Ludwig van Beethoven
Symphony No. 3 E-flat Major Op. 55
“Eroica” [50’]

- I Allegro con brio
- II Marcia funebre: Adagio assai
- III Scherzo: Allegro vivace – Trio
- IV Finale: Allegro molto

★ The performer and program have changed from the original plan.

B

15 & 16, DEC. 2021

Artist Profiles

Kazuki Yamada, conductor



Based in Berlin, Kazuki Yamada has been active worldwide, and, from April 2023, is scheduled to assume the position of Principal Conductor and Artistic Advisor of the Birmingham City Symphony Orchestra, an orchestra which has a good reputation for making excellent selections of young talent, with which he made his debut in 2012, and has been Chief Guest Conductor of since the 2018–19 season.

He was born in 1979, and served as Principal Guest Conductor of l'Orchestre de la Suisse Romande since 2012, and has been Artistic and Music Director of Orchestre Philharmonique de Monte Carlo from the 2016–17 season. After his debut with the NHK Symphony Orchestra in 2012, he made his first appearance in its subscription series in January 2016 when he conducted Program A, and Program C in April 2019. He also appeared in September 2020.

Noriko Sasaki, soprano



After studying at Musashino Academia Musicae, Noriko Sasaki, one of Japan's leading sopranos, graduated at the top of her class from the Department for Opera and Music Theatre of the Universität Mozarteum Salzburg, worked at the Vienna National Opera Studio, and had an exclusive contract with the Wiener Staatsoper. Since returning to Japan, she has made numerous operatic performances while devoting herself to the education of young artists. *4 Letzte Lieder* (*Four Last Songs*), one of Richard Strauss's masterpieces in his later years, is a work Ms. Sasaki has especially been noted for.

[Kazuki Yamada by Yoshimichi Okuda, music critic, Noriko Sasaki by Hiroko Kato, music critic]

Program Notes | Kumiko Nishi

Gustav Mahler (1860–1911)

“Blumine” movement

Mahler's *Blumine* (*Blossoms*) was initially written as the second movement of his Symphony No. 1 nicknamed “Titan” after Jean Paul's novel. Following the three first performances, this *Blumine* movement was cut out entirely by Mahler himself prior to the symphony's Berlin premiere in 1896. Missing since then, it was only discovered after the Second World War. Composed of three parts, *Blumine* invites us immediately to a longing, dreamlike world with the main singing theme given by a trumpet at the opening.

Richard Strauss (1864–1949)

4 Letzte Lieder

Along with Mahler, R. Strauss represents the late Romantic period with his most dramatic, expressive compositions. Having a long productive career, he wrote 15 operas and over 200 songs in terms of vocal works alone. Completed in 1948, a year before he passed away at age 85, *4 Letzte Lieder* (*Four Last Songs*) set German poems by Herman Hesse and Joseph von Eichendorff. All four songs are filled with serenity and resignation as if to bid farewell to the life thoughtfully.

Symphony No. 3 E-flat Major Op. 55 “Eroica”

Friend of liberty, Beethoven saw Napoleon Bonaparte as the embodiment of the French Revolution. He originally composed the *Eroica* (*Heroic*) symphony, completed in 1804, in honor of the French general. This colossal, unconventional work was a big step for Beethoven trying to break from the traditional Classical style. In the last two movements, we hear melodies from his *Die Geschöpfe des Prometheus* (*The Creatures of Prometheus*), a ballet about the heroic Greek god who stole the fire from Zeus to give it to mankind.

PROGRAM

Ikebukuro



Concert No.1946

Tokyo Metropolitan Theatre

December

10 (Fri) 7:30pm

11 (Sat) 2:00pm

conductor

Vasily Petrenko

cello

Daniel Müller-Schott

concertmaster

Ryotaro Ito

[Pre-concert Chamber Music – Exclusive to Ikebukuro Program C] Friday 10th from 6:45pm / Saturday 11th from 1:15pm
Koichi Yokomizo(vn.), Yuki Naoi(vn.), Nana Miyagawa(vn.), Ryota Kuratomi(vn.), Junichiro Murakami(va.), Ryo Muramatsu(va.),
Ryoichi Fujimori(vc.), Miho Naka(vc.)

Enesco / String Octet C Major Op. 7 – 1st Movement

*You may enter and leave as you please during the performance. *Enjoy chamber music from your own seat.

Peter Ilich Tchaikovsky
“Variations on a Rococo Theme,”
Op. 33 [18’]

Modest Mussorgsky /
Maurice Ravel
“Tableaux d’une exposition,”
suite [35’]

Promenade

I Gnomus

II Il vecchio castello

Promenade

III Tuileries

IV Bydlo

Promenade

V Ballet de poussins dans leurs coques

VI Samuel Goldenberg et Schmuyle

VII “Limoges,” le marché

VIII Catacombae

IX La cacabane de la Baba Yaga

X La porte des Bohatyrs de Kiew

*This concert will be performed with no intermission.

Under the auspice of: Tushima City

Artist Profiles

Vasily Petrenko, conductor



Vasily Petrenko was born in 1976 in Leningrad (present day St. Petersburg), and after studying at the St. Petersburg Conservatory, built up experience as an opera conductor in Russia. He became Chief Conductor of the Royal Liverpool Philharmonic Orchestra in 2006, a position he relinquished in the summer of 2021 (now Conductor Laureate). He has been Principal Conductor of the Oslo Philharmonic from 2013,

and became Artistic Director of the State Academic Symphony Orchestra of Russia and Music Director of the Royal Philharmonic Orchestra in the autumn of 2021. He first conducted the subscription series of the NHK Symphony Orchestra in January 2011, and this is his second collaboration.

Daniel Müller-Schott, cello



German cellist Daniel Müller-Schott has been actively working with world-renowned orchestras including the Berliner Philharmoniker, the Gewandhausorchester Leipzig, the London Symphony Orchestra and the New York Philharmonic while making numerous recordings, albums of which have been released on major labels. He made his debut with the NHK Symphony Orchestra as a soloist on its 2011 American tour under the baton of André Previn. This is his third appearance with the orchestra since 2013.

[Vasily Petrenko by Motoyuki Teranishi, music critic, Daniel Müller-Schott by Yoichi Iio, music journalist]

Program Notes | Kumiko Nishi

Peter Ilich Tchaikovsky (1840–1893)

“Variations on a Rococo Theme,” Op. 33

At the forefront of Russian Romanticism, Tchaikovsky is well-known for his innate good sense of melody writing and his style deeply rooted in the Western, European tradition. Composed as a cello concerto, his “Variations on a Rococo Theme” was first performed in 1877 in Moscow. For the seven variations to follow, Tchaikovsky wrote the melodious, graceful theme by himself in the late 18th century Rococo style, which was to pay homage to his role-model W. A. Mozart.

Modest Mussorgsky (1839–1881) / Maurice Ravel (1875–1937)

“Tableaux d’une exposition,” suite

Russian composer Mussorgsky originally wrote the *Tableaux d’une exposition* (*Pictures at an Exhibition*) for piano solo in 1874, shortly after visiting the memorial exhibition of the late architectural designer and painter Viktor Hartmann, his close friend. In fact, this suite consists of several short movements evoking different pictures, inserting the recurring “Promenade” movement between them. Though there exist numerous orchestral arrangements of this work, the colorful one by Maurice Ravel surely provided it with a high popularity.

Kumiko Nishi | For a profile of Kumiko Nishi, see p. 44

The Subscription Concerts Program 2021–22

2021 12	Ikebukuro A	Concert No. 1945	Brahms "Variationen über ein Thema von Haydn," Op. 56a Bartók Piano Concerto No. 3 Schönberg "Verklärte Nacht," Op. 4	Ordinary Ticket S 8,900 A 7,400 B 5,800 C 4,700 D 3,700	Youth Ticket S 5,500 A 4,500 B 3,500 C 2,500 D 1,500
		December 4 (Sat) 6:00pm 5 (Sun) 2:00pm Tokyo Metropolitan Theatre	Gaetano d'Espinosa, conductor Kaito Kobayashi, piano *The performer and program have changed from original plan.		
		Ikebukuro B	Concert No. 1947	Mahler "Blumine" movement R. Strauss 4 Letzte Lieder Beethoven Symphony No. 3 E-flat Major Op. 55 "Eroica"	Ordinary S 8,900 A 7,400 B 5,800 C 4,700 D 3,700
December 15 (Wed) 7:00pm 16 (Thu) 7:00pm Suntory Hall	Kazuki Yamada, conductor Noriko Sasaki, soprano *The performer and program have changed from original plan.				
Ikebukuro C	Concert No. 1946		Tchaikovsky "Variations on a Rococo Theme," Op. 33 Mussorgsky / Ravel Tableaux d'une exposition," suite	Ordinary S 7,400 A 6,500 B 5,200 C 4,200 D 3,200	Youth S 4,500 A 4,000 B 3,000 C 2,000 D 1,400
	December 10 (Fri) 7:30pm 11 (Sat) 2:00pm Tokyo Metropolitan Theatre	Vasily Petrenko, conductor Daniel Müller-Schott, cello			
	2022 01	Ikebukuro A	Concert No. 1948	Chopin / Glazunov Polonaise A Major Op. 40-1 "Polonaise militaire" (Orchestral Version) Chopin / Stravinsky Nocturne A-flat Major Op. 32-2 (Orchestral Version) Paderewski Fantaisie polonaise sur des thèmes originaux G Minor Op. 19* Stravinsky "L'oiseau de feu," ballet (1910 Edition)	Ordinary S 8,900 A 7,400 B 5,800 C 4,700 D 3,700
January 15 (Sat) 6:00pm 16 (Sun) 2:00pm Tokyo Metropolitan Theatre			Keitaro Harada, conductor Kyohei Sorita, piano*		
Ikebukuro B			Concert No. 1950	Prokofiev "War and Peace," opera–Waltz Prokofiev Piano Concerto No. 3 C Major Op. 26 Prokofiev Symphony No. 5 B-flat Major Op. 100	Ordinary S 8,900 A 7,400 B 5,800 C 4,700 D 3,700
	January 26 (Wed) 7:00pm 27 (Thu) 7:00pm Suntory Hall	Tugan Sokhiev, conductor Haochen Zhang, piano			
	Ikebukuro C	Concert No. 1949	Bruch Violin Concerto No. 1 G Minor Op. 26 Brahms Symphony No. 3 F Major Op. 90	Ordinary S 7,400 A 6,500 B 5,200 C 4,200 D 3,200	Youth S 4,500 A 4,000 B 3,000 C 2,000 D 1,400
January 21 (Fri) 7:30pm 22 (Sat) 2:00pm Tokyo Metropolitan Theatre		Tugan Sokhiev, conductor Vadim Gluzman, violin			
2022 02		Ikebukuro A	Concert No. 1951	Brahms Piano Concerto No. 2 B-flat Major Op. 83 Schumann Symphony No. 2 C Major Op. 61	Ordinary S 9,800 A 8,400 B 6,700 C 5,400 D 4,400
	February 5 (Sat) 6:00pm 6 (Sun) 2:00pm Tokyo Metropolitan Theatre		Paavo Järvi, conductor Igor Levit, piano		
	Ikebukuro B		Concert No. 1953	Britten "Peter Grimes," opera–Four Sea Interludes Op. 33a Barber Violin Concerto Op. 14 Elgar Variations on an Original Theme Op. 36 "Enigma"	Ordinary S 9,800 A 8,400 B 6,700 C 5,400 D 4,400
February 16 (Wed) 7:00pm 17 (Thu) 7:00pm Suntory Hall		Paavo Järvi, conductor Hilary Hahn, violin			
Ikebukuro C		Concert No. 1952	R. Strauss Symphonic Fragment from "Josephs Legende," ballet R. Strauss Eine Alpensinfonie Op. 64	Ordinary S 7,400 A 6,500 B 5,200 C 4,200 D 3,200	Youth S 4,500 A 4,000 B 3,000 C 2,000 D 1,400
	February 11 (Fri) 7:30pm 12 (Sat) 2:00pm Tokyo Metropolitan Theatre	Paavo Järvi, conductor			

A

Tokyo Metropolitan Theatre
Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm)
Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

2022
04

Ikebukuro

Concert No. 1954

April

9 (Sat) 6:00pm

10 (Sun) 2:00pm

Tokyo Metropolitan Theatre

A

B

Dvořák "Carnival," overture Op. 92
Mozart Flute Concerto No. 1 G Major K. 313
Beethoven Symphony No. 7 A Major Op. 92

Christoph Eschenbach, conductor
Stathis Karapanos, flute

Due to the renewal of Suntory Hall,
April 2022 concerts will be cancelled.

Ordinary Ticket	Youth Ticket
S 9,800	S 5,800
A 8,400	A 4,800
B 6,700	B 3,800
C 5,400	C 2,800
D 4,400	D 1,800

Ikebukuro

Concert No. 1955

April

15 (Fri) 7:30pm

16 (Sat) 2:00pm

Tokyo Metropolitan Theatre

C

Mahler Symphony No. 5 C-sharp Minor

Christoph Eschenbach, conductor

Ordinary	Youth
S 7,400	S 4,500
A 6,500	A 4,000
B 5,200	B 3,000
C 4,200	C 2,000
D 3,200	D 1,400

2022
05

Ikebukuro

Concert No. 1956

May

14 (Sat) 6:00pm

15 (Sun) 2:00pm

Tokyo Metropolitan Theatre

A

B

Schumann Violin Concerto D Minor
Schubert Symphony No. 8 C Major D. 944 "Die Große"

Marek Janowski, conductor
Alena Baeva, violin

Ordinary	Youth
S 8,900	S 5,500
A 7,400	A 4,500
B 5,800	B 3,500
C 4,700	C 2,500
D 3,700	D 1,500

Concert No. 1958

May

25 (Wed) 7:00pm

26 (Thu) 7:00pm

Suntory Hall

Mendelssohn "Meeresstille und glückliche Fahrt," overture Op. 27
Ravel Piano Concerto G Major
Rimsky-Korsakov "Schéhérazade," symphonic suite Op. 35

Fabio Luisi, conductor
Yu Kosuge, piano

Ordinary	Youth
S 9,800	S 5,800
A 8,400	A 4,800
B 6,700	B 3,800
C 5,400	C 2,800
D 4,400	D 1,800

Ikebukuro

Concert No. 1957

May

20 (Fri) 7:30pm

21 (Sat) 2:00pm

Tokyo Metropolitan Theatre

C

Mozart "Don Giovanni," opera K. 527 - overture
Mozart Piano Concerto No. 20 D Minor K. 466
Beethoven Symphony No. 8 F Major Op. 93

Fabio Luisi, conductor
Alexander Melnikov, piano

Ordinary	Youth
S 7,400	S 4,500
A 6,500	A 4,000
B 5,200	B 3,000
C 4,200	C 2,000
D 3,200	D 1,400

2022
06

Ikebukuro

Concert No. 1959

June

11 (Sat) 6:00pm

12 (Sun) 2:00pm

Tokyo Metropolitan Theatre

A

B

Dukas "La Péri," poème dansé (With its appended Fanfare)
Ravel Schéhérazade*
Debussy Prélude à l'après-midi d'un faune
Florent Schmitt "La tragédie de Salomé," ballet suite Op. 57

Stéphane Denève, conductor
Stéphanie d'Oustrac, mezzo soprano*

Ordinary	Youth
S 8,900	S 5,500
A 7,400	A 4,500
B 5,800	B 3,500
C 4,700	C 2,500
D 3,700	D 1,500

Concert No. 1961

June

22 (Wed) 7:00pm

23 (Thu) 7:00pm

Suntory Hall

Bach / Suzuki Passacaglia and Fugue C Minor BWV582
Britten Violin Concerto Op. 15
Mozart Symphony No. 41 C Major K. 551 "Jupiter"

Masato Suzuki, conductor
Sunao Goko, violin

Ordinary	Youth
S 8,900	S 5,500
A 7,400	A 4,500
B 5,800	B 3,500
C 4,700	C 2,500
D 3,700	D 1,500

Ikebukuro

Concert No. 1960

June

17 (Fri) 7:30pm

18 (Sat) 2:00pm

Tokyo Metropolitan Theatre

C

Poulenc "Les biches," ballet suite
Poulenc Organ Concerto G Minor
Gershwin An American in Paris

Stéphane Denève, conductor
Olivier Latry, organ

Ordinary	Youth
S 7,400	S 4,500
A 6,500	A 4,000
B 5,200	B 3,000
C 4,200	C 2,000
D 3,200	D 1,400

(consumption tax included)

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

しなやかな響き 颯爽とした無伴奏

J.S. バッハ

無伴奏チェロ組曲

木越 洋

【CD】
MM-4086-87(2CD) / ¥4,400



屈指の奏者、木越洋による待望の「バッハ：無伴奏チェロ組曲」。同作品の全曲演奏会を20数年に渡り毎年開催、通算では100回を優に越えるという。長きに渡り作品と対峙してきた奏者だからこそ、「組曲」それぞれのイメージ溢れる深い解釈は、作品の新たな側面を示し、聴く者を魅了します。また、濁りの無い響きを求め、倍音を意識した独自の細やかなチューニングに取り組み木越。そのニュアンス豊かな響きを高解像度録音で録えました。

J.S. BACH The 6 Cello Suites YO KIGOSHI



鮮やかなギターと優美なオーボエの歌

白鳥の歌

オーボエとギターの作品集

池田 昭子^{Ob} 福田 進一^G

ナポレオン・コスト:ロマンズ、カンティレーナ 高地
カール・ビルス:オーボエとギターのためのソナチネ
シューベルト(コスト編):セレナーテ、舟歌、他



【CD】 MM-4069 / ¥3,300

お互いの持ち味を引き立て、抜群に相性の良い響きを聴かせてくれる、ダブルリードと撥弦楽器による二重奏。オリジナル作品を軸に、池田昭子によるオーボエとイングリッシュホルンの甘美な歌が冴える、歌曲を交えてのプログラム。世界的ギタリスト、福田進一との注目のコラボレーションです。

荘重な響きが降り注ぐ! 圧巻の作品集

シャコンヌ チェロ・クアルテット K



安田 謙一郎 1st, 藤村 俊介 2nd, 宮坂 拓志 3rd, 木越 洋 4th

J. S. バッハ:シャコンヌ/グズネツォフ組曲 【CD】
ラヴェル:亡き女王のためのバヴァーヌ、他 MM-4081 / ¥3,300

カサドやフルニエといった名だたる巨匠に師事し、国内外でチェリスト・作曲家として活躍する、重鎮、安田謙一郎。彼を筆頭に、その門下が集った「チェロ・クアルテットK」。プログラムは、ヴァルガの名編曲で人気も高いシャコンヌに、録音希少なオリジナル作品のグズネツォフ組曲など。これら個性溢れる作品を、変化に富んだ荘重な響きで聴かせる、注目盤です。



ハイレゾDXD384で聴くクラシック mora x マイスター・ミュージック →



MEISTER MUSIC
<http://www.meister-music.com>

DXD384kHz
ハイレゾ録音

マイスター・ミュージックは 邦人初のディプロム・トーンマイスター主宰
高音質ハイレゾ録音&マスタリングのクラシック音楽専門レーベルです

「良い教育は、
良い環境から」

— 学園創立者 —



川並 香順 川並 孝子



《幼稚園から大学院まで計18の教育機関》

*実就職率 **96.3%** (全国女子大学ランキング1位)^{*1} *教育系就職率 **8年連続 100%**

*保育士採用数 **15年連続全国1位**^{*2} *幼稚園教員採用数 **8年連続 14回目 全国1位**^{*2}

※1：大学通信調べ卒業生 500人以上の女子大の実就職率ランキング ※2：2020年 大学通信調べ



SEITOKU

聖徳大学 (女子)

聖徳大学短期大学部 (女子)

〒271-8555

千葉県松戸市岩瀬 550

TEL.047-365-1111 (大代表)

聖徳大学

検索

<https://www.seitoku-u.ac.jp/>

聖徳大学大学院 聖徳大学教職大学院 聖徳大学 聖徳大学短期大学部 聖徳大学幼児教育専門学校
光英 VERITAS 高等学校 聖徳大学附属取手聖徳女子高等学校 光英 VERITAS 中学校
聖徳大学附属取手聖徳女子中学校 聖徳大学附属小学校 聖徳大学三田幼稚園 聖徳大学八王子幼稚園
聖徳大学多摩幼稚園 聖徳大学附属幼稚園 聖徳大学附属第二幼稚園 聖徳大学附属成田幼稚園
聖徳大学附属浦安幼稚園 聖徳大学オープン・アカデミー (SOA)

創刊から半世紀 日本で最も読まれる古美術・骨董月刊誌



2021年12月号
特集

発売中

古美術の世界商社 YAMANAKA

山中商會が広めた東洋の美

20世紀初頭、メトロポリタンや大英といった海外の美術館・博物館をはじめ、世界の大富豪たちが買い求めた東洋美術の超一級品。それらを東から西へ、世界を舞台にビジネスを展開したのが日本の古美術商「山中商會」です。12月号の特集は、日本の古美術を含む東洋美術コレクションに、いまなお影響を与えている「世界の山中」の歴史と彼らが扱った名品をご紹介します。

定価 1,320 円

お求めは目の眼 HP 書店 Amazon にて

毎月 最新号 WEB 無料公開

連載 潮田洋一郎／秋川雅史ほか

〔2022年1月号予告〕 12月15日発売

特集「神仏のみやび 春日信仰の古美術」

神奈川県立金沢文庫特別展「春日神靈の旅—杉本博司常陸から大和へ—」にあわせ、春日信仰を背景にした古美術を特集します。

定期購読なら、

古美術・骨董のあらゆる情報が見つかります。

ご指定の号から
1年間12冊 **¥10,000** (消費税 国内送料込)

定期購読者限定WEBサイトでバックナンバー8年分(約100冊)が読み放題!



株式会社 目の眼

東京都港区麻布十番 2-5-13 丸井ビル 4F TEL. 03-6721-1152

<http://menomeonline.com>

好きなホールで、
極上のひとときを。



世界のコンサートホールをすべて手に入れることはできませんが、その珠玉のサウンドをすべて手にすることは夢ではありません。いつでも好きな時に、好きなホールで、極上のひとときを。クラシック愛好家にとって、これほどの贅沢が、他にあるでしょうか。

ESOTERIC — いつかあなたが夢を叶えるために。



スーパーオーディオCDプレーヤー
K-03XD



ESOTERIC

NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

新春響

年の初め、
オーケストラの壮麗な
ハーモニーに
胸をときめかせる。

NEW YEAR CONCERT

リムスキー・コルサコフ

スペイン奇想曲 作品 34

Rimsky-Korsakov / *Capriccio espagnol Op. 34*

メンデルスゾーン

ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品 64

Mendelssohn / *Violin Concerto E Minor Op. 64*

ムソルグスキー(ラヴェル編)

組曲「展覧会の絵」

Mussorgsky (Ravel) / *"Tableaux d'une exposition," suite*



指揮

高関 健

Ken Takasaki, conductor



ヴァイオリン

白井 圭

Kei Shirai, violin

■主催: NHK / NHK交響楽団 ■協賛: 岩谷産業株式会社

2022年1月31日 [月] 7:00pm

東京オペラシティ コンサートホール

■ 発売開始: 2021年11月16日 [火] 11:00am ■ N響定期会員先行発売: 11月11日 [木] 11:00am

■ 料金 (税込)

一般	ユースチケット (26歳以下)
S ¥7,200	S ¥5,900
A ¥5,200	A ¥4,300
B ¥3,000	B ¥2,500

※定期会員は一般料金から10%割引

■ 前売所

- WEBチケットN響: <https://ticket.nhkso.or.jp/> (手数料無料)
- N響ガイド: 03-5793-8161
- 東京オペラシティ チケットセンター: 03-5353-9999
- チケットびあ: pia.jp/tnhkso (電子チケット利用可)
- e+ (イープラス): eplus.jp/nhkso
- ローソンチケット: 0570-000-407 l-tike.com/nhkso

東京オペラシティ
コンサートホール

アクセス

京王新線(都営地下鉄新線乗り入れ)
初台駅東口より徒歩5分

※ユースチケットはN響ガイドにお電話でお申し込みください。感染症予防対策のために、事前に年齢確認のための登録手続きが必要になります(N響ホームページをご覧ください)。※定期会員割引・先行発売はWEBチケットN響およびN響ガイドのみの取り扱いとなります。※車いす席をご希望の方は、N響ガイドへお問い合わせください。※N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。※未就学児のご入場はお断りしています。※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。※チケットのご購入・ご来場の際には、N響ホームページに掲載の「感染症予防対策についてのご案内」(下記URLおよびQRコードのリンク先)を必ずお読みください。
www.nhkso.or.jp/news/20200710_2.html



【お問い合わせ】N響ガイド 03-5793-8161

営業時間: 11:00am~5:00pm
定休日: 土・日・祝日/定期公演受け入れプログラムの翌月曜

※主催公演開催日は曜日に関わらず11:00am~開演時刻まで営業いたします
※発売初日の土・日・祝日は11:00am~3:00pmの営業となります
※感染症予防対策のため電話受付のみの営業となります

www.nhkso.or.jp

Follow us on     

水素で世界を動かせ。

Iwatani
岩谷産業株式会社

かんぽ生命 presents

NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

N響 第九 Special Concert

ブクステフーデ/コラール前奏曲「輝く暁の星の麗しさよ」

Buxtehude "Wie schön leuchtet der Morgenstern," chorale prelude

バッハ/トッカータとフーガ ニ短調 BWV565

Bach Toccata and Fugue D Minor BWV565

オルガン:勝山 雅世
Masayo Katsurama, organ

ベートーヴェン

交響曲 第9番 ニ短調 作品125 「合唱つき」

Beethoven Symphony No. 9 D.Minor Op. 125 "Choral"



2019年12月 N響第九
Special Concertから

Fabio Luisi, conductor
指揮:ファビオ・ルイーヂ

©Konica Ritschman

ソプラノ:ヘンリエット・ボンデ・ハンセン
Henriette Bonde-Hansen, soprano

メゾ・ソプラノ:加納悦子
Etsuko Kanoh, mezzo soprano

テノール:ステュアート・スケルトン
Stuart Skelton, tenor

バス:ミカ・カレス
Mika Kares, bass

合唱:東京オペラシンガーズ
Tokyo Opera Singers, chorus

2021年12月27日(月)7:00pm
サントリーホール

料金(税込)

S ¥17,500 A ¥14,500 B ¥11,500 C ¥8,000

ユースチケット(25歳以下) S ¥8,750 A ¥7,250 B ¥5,750 C ¥4,000

※ユースチケットはN響ガイドにお電話でお申し込みください。

感染症予防対策のため、事前に年齢確認のための登録手続きが必要になります(N響ホームページをご覧ください)。

※定期会員割引・先行発売は、WEBチケットN響・N響ガイドのみのお取り扱いとなります。

※車いす席をご希望の方は、N響ガイドへお問い合わせください。

※N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。

※未就学児の入場はお断りしています。

※チケットのご購入、ご来場の際にはN響ホームページに掲載の「感染症予防対策についてのご案内」

(下記URLおよび右記のQRコードのリンク先)を必ずお読みください。

www.nhkso.or.jp/news/20200710_2.html

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。

公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

主催: NHK交響楽団

特別協賛: 株式会社かんぽ生命保険



かんぽ生命

すべてを、お客さまのために。

前売所

WEBチケットN響 ticket.nhkso.or.jp/ (手数料無料)

N響ガイド 03-5793-8161

サントリーホール チケットセンター

0570-55-0017 suntory.jp/HALL/

チケットぴあ 0570-02-9999 pia.jp/t/nhkso

e+ (イープラス) eplus.jp/nhkso

ローソンチケット 0570-000-407 l-tike.com/nhkso

お問い合わせ N響ガイド 03-5793-8161

(営業日・営業時間はN響ホームページをご覧ください)



N響 第9

Beethoven
9th Symphony
Concert

NHK交響楽団
ベートーヴェン
「第9」演奏会

ベートーヴェン
交響曲第9番 二短調
作品125
「合唱つき」

苦悩を突き抜け

歓喜に至れ

Beethoven, Symphony
No. 9 D Minor Op.125 "Choral"
Tadaaki Otaki / Fabio Luisi, conductor
Hainette Børde-Hansen, soprano
Etsuko Kikuchi, mezzo soprano
Sivan Skalkot, tenor
Mika Karas, bass
Tokyo Opera Singers, chorus

指揮◎尾高忠明(22日) /
フアビオ・ルイージ(25日、26日)
ソプラノ◎ヘリエッテ・ボンデ・ハンセン
メゾソプラノ◎加納悦子
テノール◎ステファート・スケルトン
バス◎ミカカレス
合唱◎東京オペラシンガーズ

2021年

12/22 | 水
7:00pm

Bunkamura オーチャードホール

12/25 | 土
4:00pm

12/26 | 日
2:00pm

東京芸術劇場 コンサートホール

主催：NHK / NHK 交響楽団

協賛：みずほ証券株式会社 / はごろもフーズ株式会社 / 花王株式会社 /
株式会社明電舎 / JP モルガン・アセット・マネジメント株式会社

発売開始：11月16日(火) 11:00am

N響定期会員先行発売：11月11日(木) 11:00am

料金(税込)

一般：S ¥15,000 A ¥12,000 B ¥9,000 C ¥6,000

ユースチケット(25歳以下)：S ¥7,500 A ¥6,000 B ¥4,500 C ¥3,000

※ 定期会員は一般料金から10%割引

前売所

- WEB チケットN響 <https://ticket.nhkso.or.jp/> (手数料無料)
- N響ガイド 03-5793-8161
- Bunkamura チケットセンター(22日のみ) 03-3477-9999 | <https://mybun.jp>
- 東京芸術劇場ボックスオフィス(25、26日のみ) 0570-010-296 | www.geigeki.jp/t/
- チケットぴあ 0570-02-9999 | pia.jp/nhkso/
- e+ (イープラス) eplus.jp/nhkso/
- ローソンチケット 0570-000-407 | l-tike.com/nhkso/

※ ユースチケットはN響ガイドにお電話でお申し込みください。

※ 感染症予防対策のため、事前に年齢確認のための登録手続きが必要になります。(N響ホームページをご覧ください)

※ 車いす席を希望の方は、N響ガイドへお問い合わせください

※ 定期会員割引：先行発売はWEBチケットN響およびN響ガイドのみの取り扱いです

※ N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります

お問い合わせ

N響ガイド 03-5793-8161 | 営業時間：11:00am～5:00pm

定休日：土・日・祝日 / 定期公演池袋Aプログラムの翌月曜

※ 主催公演開催日は曜日に関わらず11:00am～開演時刻まで営業いたします

※ 発表初日の土・日・祝日は11:00am～3:00pmの営業となります

※ 感染症予防対策のため電話受付のみの営業となります

- 当初発表のスケジュール・出演者から変更となりました
 - チケットのご購入・ご来場の際には、N響ホームページに掲載の「感染症予防対策についてのご案内」を必ずお読みください
 - 未就学児のご入場はお断りしています(託児サービスについては各会場のホームページをご覧ください)
 - やむを得ない理由で出演者等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。
- 公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません

©The Bridgeman Art Library/jamainimages

nhkso.or.jp

Follow us on:



NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

脱炭素の道へ。 水素とLPガスが加速する。



温暖化ガス排出実質ゼロ社会の実現を目指して。

イワタニはLPガス・^{マリンガス}Maruigasの全国販売ネットワークを活かし、脱炭素の主役となる水素を暮らしと産業にお届けする準備を進めています。

さらに、低炭素なLPガスの開発、廃プラスチックやバイオガス由来の水素やLPガス製造、新しいLPガス合成技術などを推進。

クリーンエネルギーのトップランナーとして走り続けます。

水素&LPガスシェアNo.1[※]

※国内における販売シェア(2021年5月現在、自社調べ)

Iwatani

岩谷産業株式会社